

バッタ目コロギス科

コバネコロギス

Metriogryllacris magnus (Matsumura et Shiraki, 1908)

【選定理由】

県内のおもな記録は、隠岐（島前）に限られ、その他地域の生息状況はほとんど分かっていない。

【概要】

体長約20mm。触角は体長の5倍以上。翅は退化して痕跡的。体は赤褐色で、腹部背面は各節後縁が黒色のために横縞模様が顕著。形態はハネナシコロギスに酷似するが、ごく短い翅を持ち、後脛節背面に特に大きな棘を有しない。樹上性で、広葉樹などの葉の一部を切り、筒状に巻いて巣を作る。本州以南、南西諸島、台湾に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

西ノ島町の美田ダムでは、ダムサイトの投光器に誘引される本種が8～12月までの間、連続的に確認されている。暖帯海岸の照葉樹林に生息し、他県でも島嶼における多産の報告例がある。

【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする森林の伐採など生息域の環境悪化。

バッタ目キリギリス科

ハタケノウマオイ

Hexacentrus japonicus Karny, 1907

【選定理由】

おもな生息地が平地であり、市街地化に伴って生息地が減少している。

【概要】

体長約30～35mm。体色は淡緑色で、頭部から前胸の背面に濃褐色の太い条がある。前脚の脛節には鋭い棘がある。成虫は8月上旬から中旬にかけて現れ、オスは夜間「ズイチョ、ズイチョ」とせわしなく鳴く。灯火にもよく飛来する。平野部の草原に生息するが、現在では林地に隣接した丈の高い草地で見られる傾向が強く、広域に

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

開けた草地ではあまり見られなくなった。日本固有種で本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

本土域および隠岐諸島で記録されている。

【存続を脅かす原因】

平野部における草原環境の減少。河川の改修。市街地化。

バッタ目コオロギ科

カヤコオロギ

Euscyrus japonicus (Shiraki, 1930)

【選定理由】

希少種で、局所的な分布を示すため。

【概要】

体長約10～20mm。翅は短く腹部の中央にとどく程度。発音器がないため鳴かない。年1化で、成虫は8～10月に見られる。卵で越冬。河川敷や林縁などのイネ科草本に生息する。国内では関東南部から九州、国外では朝鮮半島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部および中部で記録されている。鳴かないために

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

発見が難しいが、地表が湿っている場所のチガヤ草地などを重点的に探せば、生息地はさらに見つかると思われる。

【存続を脅かす原因】

草原の減少。手を入れないことによる遷移、特にクズなどの進入によるマント群落化など。

ハサミムシ目ハサミムシ科

イソハサミムシ

Anisolabis seirokei Nishikawa, 2008

【選定理由】

自然度の高い礫浜海岸に生息するハサミムシで、県内での生息地は限られている。

【概要】

体長13～38mm前後。背面は黒から赤褐色まで変異がある。また腹部先端のハサミも曲がったものから直線的なものまで変異がある。同所的にハサミムシ（ハマベハサミムシ）が生息しており、よく似ているが、大型で背面が赤褐色の個体は本種である可能性が高い。

国内では本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

半島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部および隠岐諸島の海岸に生息する。

【存続を脅かす原因】

自然度の高い礫浜海岸の消失。

写真 口絵22

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅
絶滅危惧Ⅰ類

絶滅
絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅
準絶滅危惧

情報
情報不足

カメムシ目トゲアワフキ科

ムネアカアワフキ

Hindoloides bipunctata (Haupt, 1923)

【選定理由】

本科は熱帯地方に多く、日本産は2属2種。幼虫は石灰質の巣を寄主上につくる。生息地は全国的に限られ、中国地方での記録も少ない。

【概要】

体長(翅端まで)オス4mm、メス5mm。オスは小楯板が赤色で他は一樣に黒色。メスは前胸背も赤色。前翅は黒色で、先端部は膜質。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾・中国に分布し、ソメイヨシノなどのサクラ類を寄主とする。成虫は4~5月ごろ現れる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ふ化した幼虫は巻き貝状の巣を作る。

【県内での生息地域・生息環境】

産地は出雲部から石西部にかけて点在するが、個体数は少ない。おもに里山的環境の植栽されたサクラ樹で発見される。隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

里山的環境の開発、殺虫剤散布、大気汚染など。

カメムシ目セミ科

チツゼミ

Kosemia radiator (Uhler, 1896)

【選定理由】

本州のセミでは最小であり、見つけにくい。里山的環境に適応した種だが、個体群動態の把握が難しい。

【概要】

体長27-32mm、開張48-57mm、メスがやや大きい。体は黒色、体表に銀灰色の鱗毛を有する。腹面の大部分は黄褐色。成虫は県東部平地では8月中旬から11月上旬にかけて現れる。産卵はツツジ類などの生枝中に行う。日本特産種で北海道・本州・四国・九州に生息する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

【県内での生息地域・生息環境】

平地の公園などで鳴き声などの生息情報は多い。隠岐諸島でも確認されている。小型で採集しにくいので発生状況の把握が困難である。

【存続を脅かす原因】

二次林的環境の破壊、または放置、竹林などへの移行。

カメムシ目ハネビロウンカ科

キスジハネビロウンカ

Rhotana satsumana Matsumura, 1914

【選定理由】

山地の広葉樹林で得られるが、生息地が局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長3.5mm、翅端まで7mm。体は淡黄褐色で、前翅は著しく広く大きい。前翅には外縁に平行した暗黄色帯をもつ。詳しい生態は未知であるが、カンランを吸汁している観察記録がある。国内では本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県中部から東部の中国山地沿いの3カ所で得られている。

【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目アリヅカウンカ科

アリヅカウンカ

Tettigometra bipunctata Matsumura, 1900

【選定理由】

幼虫がアリの巣に共生するという特異な習性を持つ。本科、本属の日本産の種は他に1種のみで、個体数も少ない。

【概要】

体長(翅端まで)5mm、ふつうのウンカに比べて体幅が広い。体や前翅は淡褐色で、暗赤褐色と赤色の顆粒を散布する。本州のみから知られる希種で、幼虫はアリの巣内で生活するという。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の中国山地林縁部の1カ所で記録されている。

【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目マルウンカ科

キボシマルウンカ

Ishiharanus iguchii (Matsumura, 1916)

【選定理由】

生息地が局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長（翅端まで）5mm、半球形で前翅は橙色に黒褐色の斑紋があり、ある種のテントウムシに似ている。ナガバノヤブマオなどのイラクサ科植物に寄生する。国内では本州・四国・九州・対馬、国外では中国に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内の数カ所で記録があり、隠岐諸島にも産する。林縁部の草地で得られる。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目マルウンカ科

カタビロクサビウンカ

Issus harimensis Matsumura, 1913

【選定理由】

アカマツやネズなどの針葉樹につく希種とされ、県内における生息記録は少なく、アカマツ林の衰退の指標となる。

【概要】

体長（翅端まで）8mm程度のウンカのなかまでである。頭部は黄褐色、体は黒褐色でやや扁平。前翅の幅は広く後方に向かってやや狭くなる。前翅の膨出部には白帯がある。本州と四国に分布する。詳しい生態・分布はあきらかでないが、発生期は6月初旬らしい。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐（島後）のアカマツをまじえた丘陵地で生息が確認されている。他にも、やや急峻な丘陵地のアカマツ林で、市街化していない地域に生息しているものと思われる。

【存続を脅かす原因】

森林伐採やアカマツ林の遷移、「松枯れ予防」と称する殺虫剤散布。

カメムシ目アオバハゴロモ科

キノカワハゴロモ

Atracis formosana Jacobi, 1915

【選定理由】

最近本州で分布が確認された南方系の種であり、アリと共生するなど独特の生活様式をもつ同翅類である。

【概要】

体長（翅端まで）7mm程度のアオバハゴロモの仲間。体は扁平で軍配型。緑色の地に暗黒色の模様が全体にあり、樹皮に似ている。複眼はよく発達し側方に突出する。成虫は各種の広葉樹上に見られ、幼虫は樹皮下で生活し、ヤマアリのなどのアリに保護されている。南西諸島に分布するが、1990年代後半に九州から山口県、千葉県の数カ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

所で採集されている。県内では1999年に東部低山地で確認され、その後西部の山間で多数採集されている。

【県内での生息地域・生息環境】

山間の谷沿いの雑木林（クリ－コナラ林）などに生息する。

【存続を脅かす原因】

開発に伴う森林破壊や、殺虫剤散布など。

カメムシ目ハゴロモ科

スケバハゴロモ

Euricania fascialis (Walker, 1858)

【選定理由】

自然林の林縁部に生息するが、他のハゴロモ類に比べ、産地も個体数も少ない種である。

【概要】

体長6mm、翅端まで10mm程度のハゴロモのなかまでである。体は黒褐色で、前翅は透明で不連続な暗褐色の帯状紋がある。キイチゴ、オウトウ、ブドウ、クワなどを吸汁する。本州・四国・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

中山間地5カ所で確認されているが、隠岐諸島には記

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

録がない。

【存続を脅かす原因】

開発に伴う森林破壊や殺虫剤散布など。

カメムシ目ハゴロモ科

ヒメベッコウハゴロモ

Ricania taeniata Stal, 1870

【選定理由】

熱帯東洋系の種であり、県内は分布の北限とみられる。

【概要】

体長6mm、翅端まで10mm程度、前翅は黄褐色で中央より外方に先端縁に平行な3本の暗色帯がある。平地のイネ科草本上に生息するが、個体数は多くない。国内では本州以南、国外では台湾・インド・フィリピンに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

河川敷などの開けた環境で採集されているが、県東部では個体数は少ない。隠岐諸島では未発見。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【存続を脅かす原因】

イネ科草原の大規模な火入れや、殺虫剤散布、市街化。

カメムシ目キジラミ科

シャシャンボキジラミ

Cacopsylla vaccinii (Miyatake, 1964)

【選定理由】

松枯れによって尾根の植生が変化し、寄主植物であるシャシャンボの生育地が減少している。

【概要】

体長約2.5mm。翅は透明で顕著な模様はない。寄主はツツジ科のシャシャンボで、幼虫は虫えい（虫こぶ）を形成しない。新成虫は6月に出現する。成虫は羽化後しばらくすると寄主から分散し、野外での発見は困難になる。日本固有種で、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵22

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の丘陵地で確認されている。隠岐諸島にはシャシャンボが自生しているものの、これまでのところ確認されていない。

【存続を脅かす原因】

松枯れによる植生の変化。

カメムシ目ミズカメムシ科

ミズカメムシ

Mesovelgia vittigera Horváth, 1895

【選定理由】

生息地が局地的であり、希少であるため。

【概要】

体長2.3-3.4mmで、体は緑褐色で光沢がある。オスの腹部第8節腹面中央には黒色の毛束からなる突起があり、これが他種との区別に用いられる形質である。ふつう無翅型であるが、まれに長翅型が出現する。

【県内での生息地域・生息環境】

浮葉植物や抽水植物が豊富な溜池に生息する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化と消失。

カメムシ目ミズムシ科

ミヤケミズムシ

Xenocorixa vittipennis (Horvath, 1879)

【選定理由】

水生植物が豊富な池沼に生息する中型のミズムシで、生息環境が局所的で県内での生息確認地点は多くない。

【概要】

体長7.2-9.1mm、丸みのある光沢の強い種である。淡青黄色に黒色条斑をもち、前胸背には6-8条の黒色帯がある。本州・四国・九州、台湾・中国に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

生息確認地は東部4地点、中・西部各1カ所ですべてが平地の溜池であった。生息池での個体群密度は比較的

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵22

大きい。隠岐諸島では確認されていない。

【存続を脅かす原因】

溜池などの止水域の大規模な開発、水路整備や宅地造成など。各種排水の流入や帰化動物の放流。

カメムシ目イトアメンボ科

イトアメンボ

Hydrometra albolineata (Scott, 1874)

【選定理由】

溜池などの生息場所が失われ、全国的に絶滅が危惧される。隠岐（島後）を含む県内でも生息の記録がある。

【概要】

体長11-14mm、暗褐色から黒色で、長翅型と短翅型がある。オスの腹部7節の腹面は縦にくぼみ長毛がある。池沼・水田・河川などの水際にすみ、水面を走ることができる。分布域は国内では本州・四国・九州・トカラ諸島、国外では朝鮮半島・中国・台湾。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【県内での生息地域・生息環境】

県内での記録は灯火採集によるものが多く、確実な生息地は確認されていない。本種と同所的に生息する同属のヒメイトアメンボは県内全域に生息する。

【存続を脅かす原因】

水辺の植生破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境悪化。

カメムシ目マキバサシガメ科

キバネアシブトマキバサシガメ

Prostemma kiborti (Jakovlev, 1889)

【選定理由】

地表性で採集が困難な種であり、全国的に希種とされる。県内では最近になって生息が確認された。

【概要】

体長10mm内外、光沢のある黒色で、粗い毛でおおわれている。翅は短く革質部は黄褐色で、膜質部は退化する。地表の石下で生活する。分布域は国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・モンゴル・極東ロシア。

【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川や高津川の河川敷で少数が得られている。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【存続を脅かす原因】

河川敷の破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

カメムシ目サシガメ科

アシマダラアカサシガメ

Haematoloecha rubescens Distant, 1883

【選定理由】

暖地に棲む地表性のサシガメであり、分布域は広いが個体数は少ない。県内では戦前の記録が1カ所あるが、その後は発見されていない。

【概要】

体長11.5-14mmで頭部、前胸背、小楯板は赤色である。前翅は黒色で革質部の前縁と基部、中央の横帯は赤色を呈する。脚も赤色で、各節に黒帯がある。本州・四国・九州・伊豆諸島・小笠原諸島・奄美大島・沖縄本島、朝鮮半島・中国に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

雲南市三刀屋町での記録が唯一。生息環境はアダチサシガメと同様に海岸部の林床とされるが、当地では河川敷等のような場所であったかもしれない。

【存続を脅かす原因】

海岸林や河畔林の汚染や破壊。

カメムシ目サシガメ科

クロバアカサシガメ

Labidocoris insignis Distant, 1883

【選定理由】

日本特産のサシガメで、県内での生息地は局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長12mm内外で、前胸背後葉、前翅革質部後縁、腹部が鮮やかな紅色である。山地の草むらで発見され、朽ち木の樹皮下などで成虫越冬する。本州・四国・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と隠岐（知夫里島）の2カ所で記録がある。こ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

これらの放牧地に見られる二次草原に生息するものと思われる。

【存続を脅かす原因】

草原の物理的破壊、火入れなどの過剰な管理、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

オオアシナガサシガメ

Gardema melinarthrum Dohrn, 1860

【選定理由】

細長い大型のサシガメで、南方系の種である。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長20mm内外、体肢は細長く淡褐色で脚は黄色。触角は細長く糸状で体長を超える。ササ藪の地表近くで発見されるが、個体数は少ない。国内では本州・九州、国外ではフィリピン、スリランカに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

中部山地の邑南町と隠岐（島後）で記録されている。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

生息環境は雑木林のササ群落である。今のところ他地での記録はない。

【存続を脅かす原因】

雑木林の伐採、林床のササ群落の刈り取り。大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

マダラカモドキサシガメ

Empicoris rubromaculatus (Brachburn, 1889)

【選定理由】

細長い小型のサシガメで、日本特産種。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長5mm内外、暗褐色の地に淡色紋がある。触角や脚は黄白色で、多数の暗褐色輪がある。半翅鞘は柔らかく、一見蚊に似ていることからこの和名がついた。草むらの枯れ草に見られるが発見困難。本州・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

近年斐伊川の河川敷や八束町で発見されているが、今

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

のところ他地での記録はない。

【存続を脅かす原因】

河川敷の改修、コンクリート化、火入れ、殺虫剤散布。

カメムシ目サシガメ科

ヒゲナガサシガメ

Serendiba stalianus (Horvath, 1879)

【選定理由】

細長い中型のサシガメで、日本特産種。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長15mm内外、暗赤褐色で脚は黄色。触角は細長く糸状で、前胸背側角は棘状に突出する。県内で採集されたものはいずれも灯火に飛来した個体で、生態は明らかでない。周辺のコナラ、クヌギなどの樹上で生活し、他の昆虫などを捕食するものと思われる。本州・四国・九州・対馬に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県西部平野と隠岐（島後）の2カ所で記録がある。環境の良好なクヌギ・コナラの二次林に生息すると考えられる。

【存続を脅かす原因】

森林伐採、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

クビアカサシガメ

Redvius humeralis (Scott, 1874)

【選定理由】

大型のサシガメ類で、県内の生息地が局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長13-16mm、光沢のない黒色で、長軟毛を密生する。前胸背の後半が暗赤色で、その中央は黒色。コナラ、クヌギなどの樹上で生活し、鱗翅類の幼虫などを捕食する。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地下部の4カ所で記録がある。環境の良好なクヌギ・コナラの二次林に生息する。

【存続を脅かす原因】

森林伐採、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

ウデワユミアシサシガメ

Polytoxus armillatus T. Ishikawa, 1998

【選定理由】

最近記載された小型のサシガメで、今のところ西日本の数カ所での記録のみである。県内では1991年に発見されたがその後の記録がない。

【概要】

体長10mm内外、赤褐色で体正中部に黒帯がある。河川の河口部のヨシ帯に生息すると見られるが、詳しい生態は未知である。本州・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川水系の下流域の河川敷で記録されている。岸辺

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

のヨシ帯で、小昆虫を捕食すると思われる。同属のキベリユミアシサシガメは、県東部の河川敷など2カ所で発見されている。形態・生態は本種とよく似ている。

【存続を脅かす原因】

河川改修に伴うヨシ帯の破壊、水質汚濁などの環境悪化。

カメムシ目ナガカメムシ科

オオメダカナガカメムシ

Malcus japonicus Ishihara et Hasegawa, 1941

【選定理由】

日本特産種で、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

【概要】

体長6mm内外、黒褐色で細長く全身に大きい点刻を密に散布する。前胸背後葉の両端に1対の大きなこぶがある。クワを食草とし、本州・四国・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

益田市匹見町と出雲市佐田町の2カ所で記録されているが、最近隠岐（島後）でも確認されている。良好な里

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

山環境に生息する種類である。

【存続を脅かす原因】

里山環境の開発、環境汚染。

カメムシ目ナガカメムシ科

ヒメマダラナガカメムシ

Graptostethus servus (Fabricius, 1787)

【選定理由】

海岸砂丘のハマヒルガオ群落に特異的に生息するカメムシで、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

【概要】

体長10mm内外、橙赤色の地に頭部、胸背、脚、前翅などに黒色の斑紋がある。前翅の斑紋には変異がある。ハマヒルガオなどを食草とする。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

出雲市大社町から大田市にかけての砂質海岸2カ所で

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

確認されている。

【存続を脅かす原因】

海岸砂丘の後退、人為的破壊および海洋汚染。

カメムシ目ノコギリカメムシ科

ノコギリカメムシ

Megymenum gracilicorne Dallas, 1851

【選定理由】

農耕地周辺の水辺の草本群落で発見されるカメムシで、生息地は局限され個体数も少ない。

【概要】

体長13-16mm、赤紫色を帯びた黒褐色で、頭部はシャベル状に突出する。前胸背の前縁と側縁に突起があり、腹部側縁は鋸歯状となる。カラスウリ、カボチャ、キュウリなどに見られる。国内では本州・四国・九州・トカラ諸島、国外では朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部数カ所で確認されている。発見・採集が困難な種類であり、生息域はもっと広いと思われる。

【存続を脅かす原因】

水辺周辺の除草や除草剤散布、水路のコンクリート化。

カメムシ目カメムシ科

ウシカメムシ

Alcimocoris japonensis (Scott, 1880)

【選定理由】

農耕地周辺の広葉樹林で発見されるカメムシで、産地は局地的で個体数も少ない。

【概要】

体長8-9mm、光沢のある黄褐色に多数の黒色点刻があり、一見暗褐色に見える。前胸背側角はウシの角状に突出する。小楯板は大きく基部両側に黄白色紋がある。本州・四国・九州・南西諸島に分布し、アセビ、シキミ、フジなどで発見される。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

今まで匹見、隠岐諸島、松江、三瓶、八東、木次で確認されている。関西では都市公園のような場所で発生しており、今後生息域はもっと広がると思われる。

【存続を脅かす原因】

農耕地や住宅地周辺の緑地帯の破壊、環境悪化。

カメムシ目カメムシ科

イシハラカメムシ

Charazonotum ishiharai (Linnavuori, 1961)

【選定理由】

山地の広葉樹林縁部で発見されるカメムシで、産地は局地的で個体数も少ない。県内では近年確認された。

【概要】

体長9-11mm、黄褐色に多数の黒色点刻を散布する。小楯板の先端には黄白色紋がある。幼虫・成虫ともにミツバウツギの実を吸取する。本州・四国・朝鮮半島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

奥出雲町上阿井の林道法面のミツバウツギで発見され

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

た。ミツバウツギは県内ではまれな植物ではないので、今後生息域はもっと広がると思われる。

【存続を脅かす原因】

山間部の大規模な開発（道路整備や宅地開発）など。

カメムシ目ツノカメムシ科

エゾツノカメムシ

Acanthosoma expansum Horvath, 1905

【選定理由】

中型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、山地の自然度の指標となる。

【概要】

体長12-15mm、緑褐色で、前胸背側角は黒く強く突出する。ミズキやニワトコなどの植物上で見られる。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

東部山地と隠岐（島後）に記録がある。山地の広葉樹をまじえた環境の良好な二次林に生息する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【存続を脅かす原因】

山林の伐採や大気汚染などの環境の悪化。

コウチュウ目カワラゴミムシ科

カワラゴミムシ

Omphron aequalis Morawitz, 1863

【選定理由】

砂地に生息する地表性甲虫で、全国的に減少している。県内では内陸での古い記録があるが、現在では生息地がほとんど消失している可能性がある。

【概要】

体長5.5-6.5mm。ハンミョウ科やオサムシ科に近縁な独立した科として扱われている。体は円形で肢が長い。海岸や砂丘、内陸の砂地（自然堤防など）に生息する。成虫は灯火に飛来する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、沿海州、中国に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の内陸部で記録がある。近年の記録はまったくない。

【存続を脅かす原因】

砂地環境の消失。

コウチュウ目ハンミョウ科

コハンミョウ

Myriochile speculifera (Chevrolat, 1845)

【選定理由】

砂質の河原に生息するが生息に適した環境が減少。

【概要】

体長11-13mm。赤みを灰色で鈍い金属光沢がある。上翅には細い白色の斑紋がある。成虫は春から秋にかけて出現し7~8月、夏に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。

河川敷、河口など水辺に見られるが、丘陵地など裸地・乾燥した場所でも生息が確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島、台湾、中国、東南アジアに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の河川の中・下流域。隠岐諸島で記録がある。

【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

アイヌハンミョウ

Cicindela gemmata aino Lewis, 1891

【選定理由】

生息環境である石礫がある河川敷に生息する種で県内の分布も局所的。

【概要】

体長16-17mm。体色は青緑色を帯びた鈍い金属光沢。上翅には太くはっきりした白紋があり、青く光る孔点の列がある。

成虫は春期に石礫が多くあるような大型河川の上中流域の河川敷に局所的に出現する。晴れた日中に活発に歩行・飛翔して、小型の昆虫類を捕食する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、シベリア南東部に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の大型河川の上中流域の河川敷に生息。西部地域では比較的多く採集されている

【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

コニワハンミョウ

Cicindela transbaicalia japonensis Chaudoir, 1863

【選定理由】

砂質の河原に生息するが、生息に適した環境が減少している。

【概要】

体長11-13mm。体色は緑を帯びた灰色の金属光沢で、上翅には白い紋がある。成虫は春から秋に出現し7~8月に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。河川敷、河口の濁った砂地に見られ、丘陵地の裸地・乾燥地にも見られる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、サハラに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部地域のおもに大型河川で採集されている。

【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

ホソハンミョウ

Cylindera gracilis Pallas, 1777

【選定理由】

全国的にも減少している種であり、県内の分布も限定される。

【概要】

体長10-12mm。細長い体型で、体色は黒みを帯びた金属光沢を持つ。上翅には4つの白色の斑紋を持つ。上翅後半の中央部に赤い紋が出る型もある。

成虫は7~8月に出現する。飛翔することはほとんど無く、素早く地上を徘徊して昆虫など小動物を捕食する。幼虫は土中に穴を掘り中に身を潜めて、近くを通る獲物

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

を待ち伏せて捕食する。

本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、シベリアに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の山地に形成された草原。

【存続を脅かす原因】

開発等による生息地の消滅や、草原、疎林が植生遷移による生息適地の劣化・縮小。

コウチュウ目オサムシ科

ノツメクラチビゴミムシ

Rakantrechus (Uozumitrechus) notsui S. Ueno, 2010

【選定理由】

島根半島が本種の基準標本産地となっているが、記載されて以降、新たな採集記録がない。

【概要】

九州中央部、四国西部、中国地方西部に分布するラクンメクラチビゴミムシ属の中で秋吉台に分布中心のあるアキヨシメクラチビゴミムシ属のうち本種とミスミメクラチビゴミムシは島根県に産し、他種の分布域から離れて飛び石状になっている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

2008年に島根半島西部の廃坑で発見された。所属亜属の日本海側での分布東端で、ミスミメクラチビゴミムシとの間には大きな空白地帯を挟んでいる。地中に生息していると思われるが特異な分布の理由も含めて情報が不足している。

【存続を脅かす原因】

情報不足のため不明である。同属他種の状況から見ると安定的な地中環境を好むように思われることから、地下水系の変化を引き起こす治水などには注意を要する。

コウチュウ目オサムシ科

ササジメクラチビゴミムシ

Stygiotrechus sasajii S. Ueno et Naito, 2007

【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地となっており、記載されて以降、新たな採集記録がない。

【概要】

体長約2.5mm。体色がアメ色で後翅が無く、無眼といった、洞窟や地下に生息する昆虫の特徴をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメクラチビゴミムシ属のなかで日本海側に産する特異な種である。

【県内での生息地域・生息環境】

2006年に江の川沿い（江津市）の低標高地で地中の礫

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

層から見いだされ、翌年に記載された。2カ所で採集されているが以降の記録はない。おそらく江の川河口周辺の地中環境に生息していると思われるが絶滅リスクを評価するためにはさらなる情報が必要である。

【存続を脅かす原因】

情報が不足しており具体的な危機には言及できないが、江の川河口周辺の大規模な改変や地中環境に影響する護岸などは脅威となり得る。

コウチュウ目オサムシ科

マシダナガゴミムシ

Pterostichus mashidai Ishida, 1959

【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地となっている。県内の記録は少なく、詳しい生息状況は不明。

【概要】

体長15mm程度。体は細長く、本種が属すナガゴミムシとしては、体が凸型でやや厚みがある。体色は黒く、光沢がある。前胸背の基部に点刻があることが、類似種との区別点。上翅には明瞭な隆条がある。動物質・腐食質の餌を摂食する。中国地方の他県では溪畔の石の下などから比較的普通に採集されるようである。本州中国地方

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

1953年県西部冠山で初めて採集されている。生息調査は不十分で、近年県東部から採集されている。その他の地域の生息状況は不明。

【存続を脅かす原因】

生息地の開発等による環境悪化。

コウチュウ目オサムシ科

オキナガゴミムシ

Pterostichus okiensis Nakane, 1989

【選定理由】

隠岐（島後）から記載されたナガゴミムシで隠岐固有種であるが、原記載後の記録が少なく生息状況など詳しい状況は不明である。

【概要】

体長 17–18mm。黒色で光沢があり前胸背はやや長めで、匹見から記載されたエサキナガゴミムシによく似るが、腹部末端節後半があまり深く凹まず、後縁が波曲しないことで区別できる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隠岐諸島固有種

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の都万および大満寺山で採集された個体により記載され、その後大満寺山での採集記録がある。シダ類が繁茂する山地の林縁や道路の側溝で採集されており、やや湿った林地が生息域と考えられる。島前では採集記録がなく調査が必要である。

【存続を脅かす原因】

生息地域や生態が明らかでないが、大規模な伐採など生息環境の激変を避ける。

コウチュウ目オサムシ科

ウミホソチビゴミムシ

Perileptus morimotoi S.Ueno, 1955

【選定理由】

河口などの潮間帯に生息するゴミムシで、日本海側ではまれである。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

【概要】

体長1.8–2.3mm。体は扁平で背面は暗い色をしている。河川の潮感域の石下などに生息する。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の河川下流に生息する。

【存続を脅かす原因】

河口の開発、特に干潟的な微環境の消失。河川水の塩分濃度の変化。

コウチュウ目オサムシ科

ウミミズギワゴミムシ

Sakagutia marina S.Ueno, 1955

【選定理由】

潮間帯に生息するゴミムシで、全国的な希少種である。県内の生息状況は不明な点が多いが、限られている可能性が高い。

【概要】

体長5.0mm前後。体は扁平で背面に鈍い青色の金属光沢がある。海浜に生息する。

国内では北海道、本州、四国、九州、国外ではサハラに分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵23

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の海浜に生息する。生息地は、砂浜上に礫が堆積するような環境である。

【存続を脅かす原因】

海岸の開発、海岸浸食、砂浜への自動車や重機の乗り入れ。

コウチュウ目コガシラミズムシ科

マダラコガシラミズムシ

Haliphus sharpi Wehncke, 1880

【選定理由】

県内での記録が少なく、また生息地での個体数も少ない。

【概要】

体長3.3–3.8mm。幼虫は藻類を食べることが知られているが、県内では確認されていない。生息地は溜池や水田などの止水域であるが、生息場所の条件など生態面で不明な点が多い。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵23

【県内での生息地域・生息環境】

県東部や隠岐諸島で記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

Canthydrus politus (Sharp, 1873)

【選定理由】

県内での生息地がきわめて限定されている。

【概要】

体長2.4–2.6mm。成虫は小型で背面に光沢があり、鮮やかな斑紋を持つ。水生植物の豊富な止水域に生息する。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部で記録がある。1950年代に松江市の市街地で記録されていたが、その後記録は途絶え、2009年に県西部で再確認された。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵23

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目ゲンゴロウ科

マルケシゲンゴロウ

Hydrovatus subtilis Sharp, 1882

【選定理由】

県内の生息地は局地的である。他県でも同じような傾向がみられる。

【概要】

体長2.4–2.7mm前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。コマルケシゲンゴロウに似るが、体長はより大きく、点刻と網目状印刻の形状が異なる。水生植物の多い溜池の浅瀬や放棄水田など、やや富栄養な水域をおもな生息地としている。国外では台湾、タイ、インドなどに分布し、国内では北海道、本州、九州、南

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

西諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の溜池や放棄水田に生息している。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ミズスマシ科

ヒメミズスマシ

Gyrinus gestroi Regimbart, 1883

【選定理由】

県内の生息地は局地的である。全国的にも減少している。

【概要】

体長4.6–5.2mm。成虫の体は幅が狭く、後方に向かって急に狭まる。背面は全体に黒色で強い金属光沢がある。溜池などの水面を旋回しながら遊泳する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部の溜池に生息しているがまれである。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ミズスマシ科

コミズスマシ

Gyrinus curtus Motschulsky, 1866

【選定理由】

県内の生息地は局地的である。全国的にも減少している。

【概要】

体長4.9–5.6mm前後。成虫の体は幅が広く、後方に向かって緩やかに狭まる。背面は全体に黒色で強い金属光沢がある。溜池などの水面を旋回しながら遊泳する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外では千島、サハリンに分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部の溜池に生息しているがまれである。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ガムシ科

エゾコガムシ

Hydrochara libera (Sharp, 1884)

【選定理由】

生息地が局地的で、希少であるため。

【概要】

体長16–18mmで、コガムシ *H. affinis* (Sharp, 1873) に非常に似た種類であるが、脚と体腹面が黒っぽいことや上翅基部の点刻の違いで容易に区別される。北海道など寒冷な地域に多く分布し、一年中水を張った休耕田や湿地などの植生が豊かな水深の浅い水域に選好性を示す。国内の分布は北海道、本州、九州で、国外からは朝鮮半島、中国、ロシアの日本海沿岸地域から記録されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【県内での生息地域・生息環境】

美郷町のみで確認されている。一年中水を張った休耕田や湿地に生息する。

【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化や消失。

コウチュウ目ダルマガムシ科

クロコブセスジダルマガムシ

Neochthebius granulatus (M.Sato, 1963)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵23

【選定理由】

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

【概要】

体長1.5–1.6mm。体は瓢箪型でやや扁平。背面は黒色で光沢は鈍い。本州、四国、伊豆諸島、千島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の岩礁海岸に生息する。

【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目シテムシ科

ヤマトモンシテムシ

Nicrophorus japonicus Harold, 1877

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

平地性の種であり、近年の記録が少ない。

【概要】

体長14–25mm前後。背面は黒色で上翅に赤色の鮮やかな4斑紋がある。後脛節が曲がることが特徴。成虫は灯火に飛来する。国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の平野部や沿岸部で記録がある。

【存続を脅かす原因】

本種の減少原因は不明な点が多い。原野的な環境の減少や農業形態（畑作）の変化によって、生息環境や餌資源が減少している可能性がある。

コウチュウ目ハネカクシ科

ウマヅライソハネカクシ

Halorhadinus sawadai Maruyama et Hayashi, 2009

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：情報不足 (DD)

写真 口絵24

【選定理由】

自然度の高い礫浜海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

【概要】

体長4.6–5.6mm。体は細長く、扁平。イソハネカクシ属の中ではきわめて大型で、潮間帯性のハネカクシとしても最大級。海岸に生息し、地下数10cm程度の潮間帯の礫間に棲む。2006年に島根県内で発見され、新種として記載された。日本固有種で、本州に分布する。これまでのところ島根県のみで記録がある。

【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の礫浜海岸に生息する。

【存続を脅かす原因】

礫浜の開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目マルハナノミ科

ツماغロマルハナノミ

Scirtes tsumaguro M. Satô et Chûjô, 1972

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

汽水域に生息する特異なマルハナノミで、県内での生息地は限られている。

【概要】

体長3mm前後。成虫の体は細長い楕円形で、背面は黄褐色だが翅端部が黒い。後肢で飛躍する。海岸や河口のヨシ原などに生息する。日本固有種で本州、九州、南西諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の大橋川のヨシ原に生息する。島根県内に

は汽水域のヨシ原がある場所は限られており、大橋川はその中でもっとも規模が大きい。

【存続を脅かす原因】

河川敷や海岸部の改修、汽水域のヨシ原の消失。

コウチュウ目マルハナノミ科

ホソキマルハナノミ

Elodes elegans Yoshitomi, 1997

【選定理由】

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

【概要】

体長3.8-4.9mm。山地溪流に生息し、幼虫は水生。山際から湧水が染み出しているような場所に生息する。日本固有種で本州、四国、九州に分布し、産地は太平洋側に多い。

【県内の生息地域・生息環境】

県東部および隠岐諸島で確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵24

【存続を脅かす原因】

山地溪流の開発。大規模な土砂災害。

コウチュウ目クワガタムシ科

オニクワガタ

Prismognathus anglaris Waterhouse, 1874

【選定理由】

県内のブナ林に生息し個体数も多くない。

【概要】

オスの体長14-19mm。メスの体長15-18mm。体は黒色。オスの大あごは短く、基部と先端部に歯を持つ。山地のブナ、ミズナラ林に生息する。成虫は7-9月に出現し、倒木上に見られるほか灯火に飛来する。産卵は含水率の高い倒木に行われ、若齢幼虫はメスが産卵時に開けた坑道内の木くずを摂食し2年で成熟して夏に羽化する。羽化後は成虫越冬せず、すぐに材から脱出して活動する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

成虫が餌を食べることは観察されていない。北海道、本州、四国、九州に分布。

【県内の生息地域・生息環境】

県西部、安蔵寺山のブナ林で採集されている。県東部や中部のブナ林にも生息している可能性がある。

【存続を脅かす原因】

森林伐採や、道路開設などによる生息域森林の消失・乾燥化。

コウチュウ目クワガタムシ科

マダラクワガタ

Aesalus asiaticus Lewis, 1883

【選定理由】

山地性の種で個体数も多くない。

【概要】

体長オス4-7mm。メス4-6mm。厚みのある長楕円形で小さくクワガタムシらしくない体型をしている。背面は褐色で黒色の棍棒状の毛が不規則に叢生にする。山地の広葉樹林に生息し、成虫は早春から初夏にかけて出現する。成虫が餌を摂食することは観察されていない。幼虫は広葉樹の朽木を摂食して成長し、2年目の秋に羽化して材内で成虫越冬する。北海道、本州、四国、九州

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

に分布。

【県内の生息地域・生息環境】

県西部・東部の中国山地、三瓶山、隠岐の島で記録がある。いずれもブナ帯及びそれよりやや標高の低い広葉樹林帯において、おもに朽木中から採集されている。

【存続を脅かす原因】

森林伐採による生息環境の消失。

コウチュウ目クワガタムシ科

ネブトクワガタ

Aegus laevicollis E. Saunders, 1854

【選定理由】

平野部から低山地に生息するが個体数は少なく、近年記録がない。

【概要】

体長オス14-33mm、メスは14-25mm。体は全体黒色。上翅には太い隆条がある。おもに平地の雑木林や沿岸部の照葉樹林に生息する。成虫は6-10月に出現し、ブナ科樹木の樹液に集まるほか、モミの樹液に来ることが知られている。また、灯火に集まる。産卵はシイ類の老木の樹洞内や、樹木の不朽部が腐植土状になった場所など

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

の記録がある。幼虫はそれらの材中等で育ち繭を作って蛹化、秋に羽化して越冬する。国内では本州、四国、九州、国外では台湾、中国に分布。

【県内の生息地域・生息環境】

県東部の平野部で採集記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息域での森林伐採など生息環境の消失。

コウチュウ目センチコガネ科

ムネアカセンチコガネ

Bolbocerosoma nigroplagiatum (Waterhouse, 1875)

【選定理由】

生息密度が低く、希少であるため。

【概要】

体長9-14mm。体色は黄赤褐色で光沢があり、頭部、小楯板、上翅後方などは黒色。前頭の中央にオスは小角状突起、メスは横隆起がある。成虫は5-10月に出現する。平地の芝生が広がる公園や河川敷、山地の放牧地などで発生する。古い牛糞などに来集、灯火にもよくくる。朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地および三瓶山の草原で、おもに灯火で採集されている。

【存続を脅かす原因】

草原の消失。

コウチュウ目コガネムシ科

ツノコガネ

Liatongus minutus (Motschulsky, 1860)

【選定理由】

生息地が局限されているため。

【概要】

体長7-10mm。光沢の無い黒色か黒褐色。オスは、頭部に長く反った角があり、前胸背板には両側と平行に縦の隆起があるが、小型なオスでは目立たない。メスの前胸背板には逆U字型の隆起がある。上翅は平圧される。成虫は、6-10月に発生する。山地の日向にある獣糞に集まる。糞下に坑道を掘り、詰め込こんだ糞に産卵する。朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ、ミャンマー、イン

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ド、ヒマラヤ、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、対馬に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山および県東部の山間地の放牧地で採集されている。

【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。

コウチュウ目コガネムシ科

クロオビマグソコガネ

Aphodius (Acrossus) unifasciatus Nomura et Nakane, 1951

【選定理由】

県内では、ホンシュウジカが生息する島根半島出雲北山山系にのみ生息する。

【概要】

体長7-9mm。体は黒色で上翅が黄土色。上翅の中央より下方に黒帯紋がある。成虫はおもに3月下旬から5月下旬にかけて出現し、秋季にも出現する。日陰にある新しいシカの糞に好んで集まり、糞内に潜って摂食する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

本種は、シカの糞に依存しているため、出雲北山山系のホンシュウジカ生息域にのみ分布する。

【存続を脅かす原因】

シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

コウチュウ目コガネムシ科

セスジカクマグソコガネ

Rhyparus azumai Nakane, 1956

【選定理由】

生息密度が低く希少であるため。

【概要】

体長5-6.5mm。体色は黒褐色から黒色で光沢を欠く。頭頂に4縦隆条、前胸背板に6縦隆条、上翅に各4縦隆条をそなえる。成虫はおもに5-9月に出現する。灯火にあつまる。日本固有種で、本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山北の原の下に位置するスギ人工林や西中国山地

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

東端の二次林で採集されている。

【存続を脅かす原因】

生息地の森林伐採。

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅
危惧Ⅰ類

絶滅
危惧Ⅱ類

準絶滅
危惧

情報
不足

コウチュウ目コガネムシ科

オキチャイロコガネ

Sericania kadowakii Nakane, 1983

【選定理由】

生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

【概要】

体長7-8mm。やや卵形でわずかに扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は赤褐色、触角は黄褐色。本種は、ナエドコチャイロコガネ*S.mimica* Lewisに近い種とされるが、体型が小さくて頑丈、背面の点刻が密で光沢が鈍いことなどで区別される。成虫は5-6月に出現。林内の低空を飛翔して移動する。隠岐(島後)にのみ分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(島後)の山林内に局所的に生息。灯火に飛来する。

【存続を脅かす原因】

生息地の山林の伐採。

コウチュウ目コガネムシ科

オオタケチャイロコガネ

Sericania ohtakei Sawada, 1955

【選定理由】

生息密度も少なく希少であるため。

【概要】

8.5-11.5mm。やや細長い卵形で少し扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は暗褐色、脚部は赤褐色、触角は黄褐色。背面は光沢がある。腹面は後胸腹板中央部と腹節に光沢がある。中国地方の個体群は、色彩が暗く、腹節の光沢を欠く、頭盾の前縁に沿った深い横溝がないなどの特徴がある。本州(関東地方以西)に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県中央部の山林が残る江の川沿いで採集された記録があるが、詳細は不明。

【存続を脅かす原因】

生息地の山林の伐採。

【特記事項】

本種は、「改訂しまねレッドデータブック2004」では、ヒバチャイロコガネ*Sericania Hirosei* Y. Miyake et Nakamura, 1995と記載していたが、分類学的変更によりオオタケチャイロコガネとした。

コウチュウ目コガネムシ科

アオアシナガハナムグリ

Aleosticus subopacus (Motschulsky, 1860)

【選定理由】

山地の落葉広葉樹林に分布するが島根県での生息地域は局地的で採集記録も少ない。

【概要】

体長15-22mm。背面は光沢の無い、緑色ないし銅褐色。前背胸および上翅に白点紋を散布し、上翅には弱い2本の隆条をもつ。成虫は6-8月に出現して、林縁部にある灌木等の花に集まる。メスは朽木に産卵し幼虫はその材を摂食して育つ。おが屑などの腐植を餌にした飼育下では容易に繁殖できるようである。国内では北海道、本

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

州、四国、九州、国外ではシベリア東部、朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓や県西部の中国山地の標高の高い自然の保たれた森林から記録されている。

【存続を脅かす原因】

生息域の落葉広葉樹林の消失。

コウチュウ目ダエンマルトゲムシ科

シラホシダエンマルトゲムシ

Pseudochelonarium japonicum (Nakane, 1963)

【選定理由】

全国的にも分布記録は局所的でまれな種類。

【概要】

体長5mm内外。体型は長楕円形。背面には白色の毛斑を有し、上翅には密な点刻がある。成虫は夏季にブナ、サワグルミ、トチノキ等の落葉広葉樹が生育する森林内の沢近くで採集されている。成虫が灯火に飛来することが知られているが、幼虫の食性、生息場所などその他の生態については不明。北海道、本州九州(対馬)に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の自然度の高い落葉広葉樹林において、灯火に飛来した個体が得られている。

【存続を脅かす原因】

生息域周辺の開発等による森林伐採や道路開設等。

コウチュウ目チビドロムシ科

ババチビドロムシ

Babalimnichus masamii M. Sato, 2001

写真 口絵24

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

【概要】

体長2.0mm前後。体は楕円形。背面は黒色で銀色の毛が生えている。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の岩礁海岸に生息する。

【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目ヒラタドロムシ科

ヒゲナガヒラタドロムシ

Nipponeubria yoshitomi Lee et M. Sato, 1996

写真 口絵24

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

【概要】

体長2.3–2.8mm。触角のほとんどの節、頭部、前胸背板、小盾板が黒色で、上翅は濃い茶褐色。雄の触角は鋸歯状で長く、体長より僅かに短い程度。日本固有種で本州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部で確認されている。山際から染み出す湧水によって涵養された湿地状の場所において、幼虫は落ち葉

や石に張り付いている。

【存続を脅かす原因】

山地溪流の開発、大規模な水害。

コウチュウ目タマムシ科

ヤマトタマムシ

Chrysochroa fulgidissima (Shonherr, 1817)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

以前は普通に見られたようであるが、近年個体数が減少した。

【概要】

体長35–40mm。大型の美麗種。全体が緑色金属光沢を持ち背面には縦に2本の赤い縞が入る。成虫は7–8月に出現。エノキ大木の樹冠部周辺を日中によく飛翔することが知られている。成虫はエノキの葉を摂食する。幼虫は主としてエノキ老木の衰弱・枯死した材を摂食して生育する。このほかカキノキ、サクラ類の樹種も幼虫

期の餌として利用されるようで、これらの材から成虫が羽化することが知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島、県東部から西部の平野部から山地での記録がある。市街地ではおもに社寺林のエノキが発生源となっているようである。

【存続を脅かす原因】

開発等による森林伐採。市街地では発生源であるエノキなどの老木の伐採。

コウチュウ目タマムシ科

アオマダラタマムシ

Nipponobuprestis amabilis (Snellen van Vollenhoven, 1864)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内で確認された生息地は局所的で個体数も少ない。

【概要】

体長16–29mm。大型の美麗種で体色は緑色の金属光沢。上翅に縦の隆条と4つの大型および多数の小型白色凹陥紋とを持つ。成虫は5–7月に平地から山地に出現。幼虫の食樹としてはソヨゴ、クロガネモチのほか、サクラ類、ツゲが知られている。成虫および幼虫が材中で越冬していることが観察されている。本州、四国、九州。国外では中国、朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から県中部にかけての市街地や内陸部の山地、また、隠岐諸島から記録がある。

【存続を脅かす原因】

森林伐採による生息地域の消失。市街地に残された発生源樹木の伐採。

コウチュウ目タマムシ科

クロマダラタマムシ

Nipponobuprestis querceti (E. Saunders, 1873)

【選定理由】

県内で生息が確認された場所は局所的で個体数も少ない。

【概要】

体長17-28mm。体色は赤味を帯びた黒色で金属光沢があり、上翅には縦の隆条と多数の白色凹陷紋を散布する。成虫は5-7月に出現する。幼虫はエノキの枯死木や、枯死した枝部分を摂食することが知られている。材の中で育った成虫がそのまま越冬している例が知られている。本州、四国、九州。国外では中国に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の市街地周辺部など低地に記録があるのみであるが、県中部、西部でも生息の可能性がある。

【存続を脅かす原因】

低地山林の森林伐採による生息場所の消滅、生息域の縮小化。

コウチュウ目コメツキムシ科

ガロアムネスジダンダラコメツキ

Harminius galloisi Miwa, 1928

【選定理由】

生息確認場所は局地的で少ない。

【概要】

体長14-19mm。体は幅広でやや扁平。体色は褐色で、上翅中央と後方には黒褐色の毛によるV字型の紋がある。成虫は夏季に森林の残された地域で灯火に飛来することが知られているが、幼虫期の生態等は不明。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の広葉樹林で夏に採集されているほか、隠岐諸島での採集記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

隠岐諸島での採集記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息域の森林伐採等による森林消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

オオベニホソヒラタコメツキ

Corymbitodes rubripennis (Lewis, 1894)

【選定理由】

全国的にも少ない種で県内の生息場所は局限される。

【概要】

体長9mm前後。上翅は黄赤から暗赤色で金属光沢を欠く。頭部から前胸背面は黒色。成虫は5-6月に出現し、山地の花上に集まる。早春にブナの朽木中から成虫が得られており、成虫で越冬するものと推察される。幼虫期の生態等は不明。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の高齢級のブナ林から採集されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【存続を脅かす原因】

生息域の森林伐採等によるブナ林の消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

ムネアカツヤケシコメツキ

Megapenthes opacus Canzeze, 1873

【選定理由】

全国的にも少なく、県内での分布も局限される。

【概要】

体長10-15mm。頭部と上翅は黒色で、前胸が赤い。背面は黒色の短い毛で覆われる。高標高地に花上で見られるが、まれ。自然度の高い森林が生息地で、樹洞付近で見つかることが報告されており、繁殖場所であることが示唆されている。成虫は夏季に出現するがそのほか幼虫期を含めて生態は不明。北海道、本州、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地で7月にイタドリに訪花しているものが採集されている。

【存続を脅かす原因】

生息域の落葉広葉樹林の伐採による森林消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

カドワキツヤミズギワコメツキ

Neohypdonus kadowakii Kishii, 1976

【選定理由】

雲南市（大東町）で採集され記載された種であるが、その後の記録がなく分布など不明である。基準標本産地であり再確認し、生息環境を明らかにする必要がある。

【概要】

体長4.0mm 前後。全体黒色でつやがあり、触角・上翅肩部は褐色を帯び、肢は黄赤色である。この仲間は微小である上に種類が多く判別が難しいとされる。本種の生態や国内での分布状況などは不明であったが、鳥取県大山で生息が確認された。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

本種は、1967年に大東で採集されたが、その後の記録がなく微小な種であるため発見し難く、同定が難しいことも一因と思われる。最近、鳥取県大山で生息が確認されており、県内でも再確認の可能性が高い。

【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目ホタル科

ヒメボタル

Luciola parvula Kiesenwetter, 1874

【選定理由】

生息地が局地的で、移動性が乏しく、環境変化による影響を受けるため。

【概要】

体長5－9mmで、複眼が大きく、触角は短い。上翅は全体に黒色で、前胸背板は大部分が桃赤色で、中央前方に黒斑がある。メスは後翅が退化している。雌雄ともに発光し、閃光的な光を放つ。成虫は6～7月に出現し、出現期間は短い。幼虫は陸生で貝類などを捕食する。日本固有種で、本州、四国、九州、五島列島に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

体長6mm前後の小型タイプと体長8mm前後の大型タイプが知られるが、島根県からは後者のタイプしか見つかっていない。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島や県全域で確認されている。スギなどの生えた古い社寺林や雑木林に生息する。林床は湿っていることが重要である。

【存続を脅かす原因】

森林の減少や林床の乾燥化。

コウチュウ目ホタル科

スジグロボタル

Pristolycus sagulatus sagulatus Gorham, 1883

【選定理由】

生息地が局地的であり、希少であるため。

【概要】

体長7mm前後。複眼が小さく、触角は大きい。上翅は全体に鮮やかな赤色で、周縁と会合部は黒色、黒色縦条がある。前胸背板は茶褐色。成虫になると発光器が痕跡的で、ほとんど発光することなく、雌雄のコミュニケーションには匂い（性フェロモン）が用いられる。幼虫は陸生であるが、湿地や溪流付近に生息し、水中に入って淡水貝類を捕食することがある。日本固有種で、千島列

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

島、北海道、本州、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

飯南町の赤名湿地のみで確認されている。

【存続を脅かす原因】

湿地などの生息できる環境の減少。

コウチュウ目ヒラタムシ科

ルリヒラタムシ

Cucujus mniszechi Grouvelle, 1874

【選定理由】

中国地方での生息は少ないようであり、県内の分布は局所的である。

【概要】

体長20－27mm。扁平な体型をしており、頭部と前胸は黒色、上翅は鈍いルリ色をしている。

山地の大木樹皮下に生息する昆虫等を捕食する。

他県での観察例では、春季に倒れたブナ等の大木に集まることが観察されている。幼虫は樹皮下を生息環境として生育し、成虫は秋季に羽化して成虫越冬し、翌春出

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

現すると思われる。

北海道、本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の高齢ブナ林から記録がある。

【存続を脅かす原因】

本種の生息に適する高齢級森林の大規模伐採など生息に適した環境の消失。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

キイロテントウゴミムシダマシ

Leiochrodes mashidai Nakane, 1963

【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地。

1954年の記載以降、本県の記録はなく生息状況は不明。

【概要】

体長2-3mm。体は半球形で光沢のある黄赤褐色をしている。近似種のクロテントウゴミムシダマシは体色が光沢のある黒褐色であることが区別点。砂質海岸に生息するほか、内陸部でも大きな河川の河川敷にも生息することが確認されており、集団で成虫越冬している例が報告されている。本州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

1954年に県西部の砂質海岸から採集され記載された。分布調査は十分でなく、県内の他地域での生息状況は不明。

【存続を脅かす原因】

河川の土砂供給量が減少して砂質海岸が縮小している。砂質海岸の地形改変、大型河川の河川敷の改修などによる生息環境の消失。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

オキツヤヒサゴゴミムシダマシ

Misolampidius okiensis Nakane, 1983

【選定理由】

隠岐（島後）から記載されたツヤヒサゴゴミムシダマシで隠岐諸島固有種であるが、分布など詳しい状況は不明である。

【概要】

体長13-15mm前後。黒褐色で全体にやや扁平で細長のずん胴型に見え、背面は滑らかで光沢がある。上翅には明瞭な条溝があり、間室は細点刻を装うやや大きく密である。またツヤヒサゴゴミムシダマシ類は、オサムシ類と同様に後翅が退化し移動能力低く、種の分化が著し

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隠岐諸島固有種

環境省：-

いとされている。成虫は朽木で見られ幼虫も朽木を食べると云われている。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）から記録されているが、個体数が少ないためか追加記録も少なく、詳しい生息状況は不明である。島前では採集記録はなく、調査が必要である。

【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目オオハナノミ科

クロオオハナノミ

Metoeus satanus Schilder, 1924

【選定理由】

森林に生息するクロスズメバチに寄生して生活しており、森林伐採等、ハチの生息適地の減少によって減少する。

【概要】

体長9-13mm。体色は黒色。体型は細長く、脚が長い。クロスズメバチに寄生して成長する。

成虫は8-9月に出現して朽ち木の割れ目などに産卵する。孵化した幼虫は巣材を集めて来たクロスズメバチに乗り移り、巣に運ばれる。巣内でハチの幼虫体内に食

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

い入り過ぎた後、ハチが蛹になる時期に体外に出て寄主の外部から体液を吸って成長して蛹化・羽化して脱出するという。北海道、本州、国外ではサハリン、チベットに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の森林。

【存続を脅かす原因】

森林伐採等による寄主であるクロスズメバチの生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ツチハンミョウ科

クロゲンセイ

Stenoria oohatai Morimoto et Maeta 2009

【選定理由】

生息密度が低く、分布も局限される。

【概要】

体長8-11mm。体色は全身暗褐色。オス、メスともに翅があり、飛ぶことができる。成虫は飼育下では6-7月に出現するが、これまで野外での成虫は1例しか記録されていない。本種は、地中に営巣するエサキムカシハナバチに労働寄生することが知られ、エサキムカシハナバチの巣内からクロゲンセイの擬蛹が得られている。本種は2009年に新種記載され、これまでのところ島根県内

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：-

写真 口絵24

の一部でしか生息が確認されておらず、確認例も少ない。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の山地にあるエサキムカシハナバチの営巣地で確認されている。

【存続を脅かす原因】

寄主となるエサキムカシハナバチの営巣地のある露頭の改変。

コウチュウ目カミキリムシ科

フタスジカタビロハナカミキリ

Brachyta bifasciata japonica (Matsushita, 1933)

【選定理由】

山地に生息しており、生息域も限定され個体数も少ない。

【概要】

体長16-23mm。頭部と胸部は黒色。上翅は黄色で端と前方に黒色横帯を持つ。成虫は4月下旬から5月上旬に、山地に咲くヤマシャクヤクに訪花し、花卉や花粉を摂食する。地表の枯れ枝、枯れ草の茎などに産卵され、孵化した幼虫は土中に潜り根茎を食入し成長すると再び土中に出て土繭を作って蛹となるという。本州、四国、アジ

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ア北東部、朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

5月に県東部から西部の山地のほか、隠岐（島後）において、ヤマシャクヤクに訪花している個体が採集されている。

【存続を脅かす原因】

生息域周辺森林の伐採等、生息地域の環境悪化。寄主植物であるヤマシャクヤクの乱獲。

コウチュウ目カミキリムシ科

クロソンホソハナカミキリ

Mimostrangalia kurosonensis (Ohbayashi, 1936)

【選定理由】

本州での分布記録は局限され、その個体数も少ないまれな種。

【概要】

体長14-18mm。体型は細長く、体背面は黄褐色。成虫は7-8月に出現。本州での採集記録は少ない。成虫はノリウツギ等の花に訪花することが知られている。ハイノキ、クロバイ、丹那サワフタギが寄主植物として知られている。本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県西部での記録があり、8月にノブドウの花に訪花しているものが得られている。

【存続を脅かす原因】

生息域の開発等による寄主植物を含む森林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

オオホソコバナカミキリ

Necydalis solida Bates, 1884

【選定理由】

ブナ林に生息し、分布は局所的で個体数も少ない。

【概要】

体長18-30mm。体は黒色で上翅は黒から明るい赤褐色まで変化がある。上翅は短く後翅、腹部が露出する。成虫は7-8月に出現する。まれに花に飛来するが、ブナの立枯れに産卵、交尾のため集まっているところを観察されることが多い。産卵は各種の広葉樹を餌とすることが記録されているが、特にブナを好む。幼虫はこれらの材を摂食する。本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の自然度の高いブナ林で採集されている。

【存続を脅かす原因】

開発等による生息域のブナ林の伐採や、景観対策等による発生源である立枯れの木の除去。

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒゲシロホソコバナカミキリ

Necydalis odai Hayashi, 1951

【選定理由】

ブナ帯に生息するが分布は局地的。

【概要】

体長14-25mm。前翅が短小で後翅が露出する。体は黒色で、触角の第8-10節が白黄から黄褐色。オスの上翅は翅端を除いて赤褐色。メスはほぼ黒色。成虫は7-8月に出現し、太いミズナラの生立木の枯死部や立ち枯れ木に産卵が集まるほか、気流の吹き上げにより山頂部に採集されることがある。各種の広葉樹への産卵記録があるが、特にミズナラを好む。幼虫はこれらの材を摂食。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

北海道、本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地、安蔵寺山においてミズナラ大木に飛来した個体が採集されている。

【存続を脅かす原因】

ミズナラ老木を有する自然度の高い森林の開発等による消失、環境悪化。

コウチュウ目カミキリムシ科

クロサワヒメコバネカミキリ

Epania septemtrionallis Hayashi, 1968

【選定理由】

本州での分布は局所的で個体数も少ない。

【概要】

体長8-11mm。体色は黒色。上翅は短く腹部背面の4分の1程度を覆い、後翅が露出する。暖帯から温帯林に生息し、成虫は6-8月に出現してクリ、ノリウツギ等の花に集まる。幼虫の食樹としてクマノミズキが知られている。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の山林で採集された1例のみで、それ以降新た

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

な記録がなく、生息地の確認が必要である。

【存続を脅かす原因】

生息地域における開発等、森林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

トラフホソバネカミキリ

Thranus variegates Betes, 1873

【選定理由】

分布は局地的で個体数も少ない。

【概要】

体長13-26mm。体は細長く、背面は黄褐色の不規則な暗色の模様があるが、色彩変異も多い。上翅は両側が途中から顕著に狭まり尖った形状で、後翅の一部が露出する。成虫は6-8月に暖-温帯林で見られ、広葉樹倒木に集まる。幼虫はシイ類、アカメガシワ、ハルニレなどの広葉樹が食樹として知られる。北海道、本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の広葉樹林で採集記録があるが、その他の地域では確認されていない。

【存続を脅かす原因】

生息地域の開発による森林伐採。

コウチュウ目カミキリムシ科

ルリボシカミキリ

Rosalia batesi Harold, 1877

【選定理由】

中国山地沿いと隠岐(島後)で採集されているが、個体数は少なく情報がとぼしい。

【概要】

体長16-30mm。全体が灰青色の鱗毛で覆われ、前胸背と上翅に黒色の斑紋がある美麗種である。斑紋に黒色の微毛があり、個体により斑紋の変化がある。触角は体長より長く、オスは第3-5節の先端に黒色の毛の束がある。国内での分布は広く温帯林上部に7-9月に出現して広葉樹の伐採木に集まる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地沿いの赤名、匹見、六日市および隠岐(島後)に採集記録があるが個体数は少ない。近年、三瓶山山麓でも採集されている。隠岐(島後)では集材場の伐採木で採集され、六日市ではクリの木の葉で採集されているが、近年は路傍に積まれた伐採木を見ない。

【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響している可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

オオアオカミキリ

Chloridolum thaliodes Bates, 1884

【選定理由】

隠岐(島後)で採集され、松江、匹見、六日市に古い記録がある。個体数が少なく採集例も少ないため、近年の状況は不明である。

【概要】

体長23-32mm。大型のカミキリムシで、背面は濃緑色、下面は緑色、前胸背は青緑色、触角と肢は濃紫藍色で触角は長い。北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、成虫は7-8月に出現して樹液や花上で見られるが、サワグルミ、ヤナギ類の伐採木に集まり、サワグル

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ミの材への産卵が知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(島後)では夕刻に新しい伐採木に飛来した個体やサワグルミの衰弱木に集まったものが採集されている。松江および匹見は古い記録で、近年の状況は不明である。島前での採集記録はなく調査が必要である。

【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響する可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

ヤノトラカミキリ

Xylotrechus yanoi Gressitt, 1934

【選定理由】

隠岐（島後・知夫里島）で採集された暖帯系の種で、分布上注目されるが採集例が少なく、生息状況など不明である。

【概要】

幅広で体長16-20mm。黒色で前頭および前胸背の前・後縁は黄色の毛で覆われる。上翅基部は赤褐色、その後方に白と黄の斜帯、翅端部は褐色でその前に黄色の帯がある。本州、九州、対馬に分布し、中地方以西の暖帯林帯で7-8月に出現する。食樹はエノキが知られている。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の大満寺山では伐採中のエノキ、知夫里島では道路脇のエノキの伐採木で採集され、いずれも伐採間もない伐木である。また、県西部の津和野で採集記録があるが詳細は不明である。

【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

キュウシュウチビトラカミキリ

Perissus kiusiuensis kiusiuensis Ohbayashi, 1944

【選定理由】

隠岐（島後）で採集されていた暖帯系の種で、分布上注目されるが採集例が少なく、詳細は不明である。

【概要】

体長7-10mm。小型のトラカミキリで、体は黒褐色、触角と肢は暗赤褐色、上翅に灰白色の2紋があり、翅端近くに灰白色の微毛を密生する。本州、四国、九州、対馬、屋久島などに分布し、成虫は7月に暖帯林帯のカシ類その他広葉樹の伐採木に集まる。八丈島には別亜種が分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の大満寺山で初めて採集され、その後、横尾山では伐採枝に飛来したものが採集された。また大久ではアカメガシワの伐採木から割り出されている。隠岐（島後）以外での記録を見ない。

【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響する可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

モンクロベニカミキリ

Purpuricenus lituratus Ganglbauer, 1886

【選定理由】

里山環境に局地的に分布する種で、島根県では1976年の初記録以降採集されていない。

【概要】

体長17-23mm。上翅は鮮紅色。前胸背に小黒紋、上翅中央部から後方部に大きな黒紋がある。5月上旬から中旬、クヌギの伐採木から伸長した萌芽に好んで集まることが知られているほか、花にも集まる。幼虫期の餌となる寄主植物はナラガシワ、クヌギ、コナラ、カシワが知られている。中国地方では岡山県での採集記録が多い。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

国内では本州、四国、九州、国外ではシベリア、中国、朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

1976年5月に島根県東部の平野部でモチノキの花に訪花した個体が得られている。

【存続を脅かす原因】

低山地開発による落葉広葉樹林の消失や、管理放棄による植生遷移による繁殖に適した環境の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

タキグチモモトホソカミキリ

Cleomenes takiguchii Ohbayashi, 1936

【選定理由】

隠岐（島後）で採集された暖帯系の種で、分布上注目されるが、他に採集例がなく詳細は不明である。

【概要】

体長7-12.5mm。体は黒色で触角および肢は暗褐色、上翅は黒色で細長く基部と先端は光沢を欠き、4個の黄褐色紋がある。肢の腿節の先端は膨れて太い。成虫は7月ごろ出現しイタドリ、ノブドウなどの花に集まるとされ、カゴノキの伐採木から成虫が羽化している。本州（伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島に分布する。（山口県・

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

準絶滅危惧種

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の高尾暖地性潤葉樹林の近くで採集されたのが唯一の記録である。高尾暖地性潤葉樹林が生息域かどうかは不明である。カゴノキがある西ノ島での調査が必要である。

【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

クビアカモモトホソカミキリ

Kururu rhopalophoroides rhopalophoroides Hayashi, 1951

【選定理由】

隠岐（島後）で採集され、本種の分布北限にあたるが、個体数は少なく生息状況も不明である。

【概要】

体長10-11mm。体は黒色、頭部の基部・前胸・上翅の小楯板周辺は赤褐色。灰白色の直立した長毛でおおわれるが、赤褐色部では黄褐色毛となる。上翅の点刻は大きくやや粗である。成虫は5~6月ごろに出現し、幼虫はモチノキ、ソヨゴなどの材を食するとされる。本州（近畿以西）、九州、対馬などに分布するが産地は限られ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：-

る（山口県・絶滅危惧Ⅱ類、岡山県・準絶滅危惧）。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）でコナラなど雑木のピーテングと林道脇の花のスピーングで採集された2例、2個体のみで、個体数はきわめて少ないと推定される。

【存続を脅かす原因】

現時点では生息域や生態が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

アヤモンチビカミキリ

Sybra bordinata Bates, 1873

【選定理由】

本州での分布は局所的で近年の記録がない。

【概要】

体長7-12mm。体色は茶から黒褐色で上翅には黄褐色の微毛に覆われ、不規則な暗色の条部がある。

南西諸島では枯れ枝上に多くみられるが、それ以外の地域では個体数は少ない。寄主植物としてトベラ、カラスザンショウ、イヌビワ、アコウが知られている。本州、四国、九州、南西諸島に分布。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の沿岸部および隠岐諸島で採集されている。

【存続を脅かす原因】

沿岸部に生育する寄主樹林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

ダイセンセダカコブヤハズカミキリ

Parechthistatus gibber daisen Miyake et Tsuji, 1980

【選定理由】

自然度の高い森林に生息する。移動能力が小さく生息域の環境が破壊された場合、地域個体群の絶滅が危惧される。

【概要】

体長12-18mm。背面は全体茶褐色、腹面は黒色。コブヤハズカミキリ類は後翅が退化し飛翔して移動できないため、地域により種・亜種に分化している。成虫は初秋に新成虫が出現する。出現した成虫は、広葉樹の生葉、枯葉を摂食する。成虫越冬して春から秋に活動する。個

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

体数は多くない。ブナ、アカメガシワなど各種広葉樹の倒木に集まり産卵する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部では低山地から中国山地、西部では中国山地、隠岐諸島に分布し、落葉広葉樹および常緑・落葉樹が混交する林分で記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息地域の森林伐採等による生息環境の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

ハンノキカミキリ

Cagosima sanguinolenta Thomson, 1864

【選定理由】

分布は局所的。主として湿地に生育するハンノキ類に依存するが、近年このような環境が消失しつつあり絶滅が危惧される。

【概要】

体長15-22mm。体色は黒く、頭部・前胸背の周辺部、上翅の開合部および下部は赤色。成虫は5~7月に出現し、主としてハンノキの生葉、枝を後食する。幼虫はハンノキが知られ、ヤシャブシから羽化した例もある。北海道、本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の山間部でハンノキ類の生育する地域で採集されている。出雲市の平野部でヤシャブシ類を発生源として継続した発生が見られる。

【存続を脅かす原因】

開発など本種の寄生植物である森林の伐採や、ハンノキが多数生育する湿地環境の、植物遷移による林の衰退。

コウチュウ目カミキリムシ科

アサカミキリ

Thyestilla gebleri (Faldermann, 1835)

【選定理由】

寄生植物のアサの栽培の禁止により、生息環境が消失した。1950年前後には県東部、隠岐で複数の採集記録があったが、近年の記録はない。

【概要】

体長10-15mm。黒色の背面中央部および両側に灰白色の縦縞を持つ。成虫は5-7月に出現し、アサ、アザミ類の葉や茎を摂食し、幼虫は茎に潜入。全国的にアサ(大麻)の栽培禁止後は激減した。近年、他県では乾性草原のアザミやヨモギで発生が確認されている。県内でもア

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サに近縁な植物等を餌に生息している可能性がある。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、東シベリア、中国、モンゴルに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部地域の平野部と内陸部、隠岐(島後)で記録があったが、近年の記録はない。

【存続を脅かす原因】

生息する可能性のある乾性草原の保全が必要。

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科

ヒメマルミツギリゾウムシ

Higonius cilo Lewis, 1884

【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。

【概要】

体長4-6mm。細長い体型で上翅は光沢のない茶色で中央部に2個の黒点を持つ。成虫越冬する個体が観察されている。森林性で成虫は春から秋に採集記録がある。幼虫の食性等その他の生態については不明。本州、四国、九州、南西諸島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から中部で採集されている。三瓶山山麓では晩

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

秋に落葉広葉樹林の立ち枯れたネムノキの幹の孔に潜入しているところが観察されている。

【存続を脅かす原因】

森林伐採等による生息森林の消失。

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科

ミツギリゾウムシ

Baryrhynchus poweri Roelofs, 1879

【選定理由】

低山地から山地にかけて分布するが、近年とくに低山地では見られなくなった。

【概要】

体長10-24mm。体型は細長く、体色は光沢の強い黒色。上翅には赤黄色の斑紋がある。成虫は6-8月に出現し、日中に林内を飛翔するものや広葉樹の枯れ木上に集まる。幼虫は各種の広葉樹枯れ木の材を摂食すると推定されるが詳しい生態等は不明である。本州、四国、九州、国外ではインドシナ、台湾、中国に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部まで。低山地から山地にかけての落葉広葉樹林での採集記録がある。

【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息森林環境の消失。

コウチュウ目ゾウムシ科

バックinghamカギアシゾウムシ

Bagous buchingami O'Brien et Morimoto, 1994

【選定理由】

寄主植物が希少植物のガガブタに限定されている。

【概要】

体長3mm前後。体は細長く、背面は灰色で上翅の先端付近に白色斑紋がある。脛節の先端はかぎ針状。成虫はガガブタの浮葉上に生息し、浮葉の表面をかじり取るように食べる。幼虫は潜葉性。

国内では本州、九州、国外ではベトナムに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部のガガブタが生える池で確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【存続を脅かす原因】

ガガブタの減少。ガガブタは「改訂しまねレッドデータブック2013植物編」において準絶滅危惧種に指定されている。

写真 口絵24

コウチュウ目ゾウムシ科

タカハシトゲゾウムシ

Dinorhopala takahashii (Kono, 1930)

【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。隣県においても数例の記録があるのみ。

【概要】

体長4mm内外。体全体はほぼ黒色で、前胸、上翅基部に赤褐色部がある。また、上翅には大小の円錐形突起を持つ。黒色の後脚腿節部は三角突起状に肥大する。成虫は5～7月に出現しサクラ類の幼木の葉裏に見られる。幼虫はサクラ、スモモの葉に潜り内部を摂食することが知られている。採集例は少ない。本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県西部、中部の山間部において、落葉広葉樹林での記録がある。

【存続を脅かす原因】

本種の寄生樹種であるサクラ類を有する森林の大規模伐採や針葉樹造林による樹種転換。

コウチュウ目ゾウムシ科

ババスゲヒメゾウムシ

Limnobaris babai Chûjô et Morimoto 1959

【選定理由】

生息可能な湿地が県内には非常に限られている。

【概要】

体長3.5～4.4mm。黒色小型のゾウムシである。成虫は春から初夏に出現し、大型のスゲ属の葉を食べる。日本固有種で本州と九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の湿地で確認されている。これまでのところ1カ所のみで確認されているが、中国山地の小規模な湿地を調査すれば生息を確認できる可能性がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵24

【存続を脅かす原因】

湿地の開発、自然遷移。

コウチュウ目ゾウムシ科

クロホシタマクモゾウムシ

Egiona picta (Roelofs, 1875)

【選定理由】

全国的にも少ない種で分布は局所的で個体数も少ない。

【概要】

体長3mm前後。体型は長楕円形で、灰色の背面に顕著なビロード状の黒紋を有するほか、茶色の横帯を有する。大木の根元の苔や落葉層で成虫越冬しているものが観察されている。そのほかの生態、幼虫の食樹等の詳しいことは不明。本州、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県東部山林において冬季、ケヤキ大木の樹皮下で越冬している個体が採集されている。

【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息地域の森林の消失。

コウチュウ目ゾウムシ科

モジャモジャツチイロゾウムシ

Pseudohylobius setosus Morimoto, 1962

【選定理由】

全国的にもまれな種であり、県内の分布も限定される。

【概要】

体長6mm前後。体色は全体茶色で、体の上面は疎生する「もじゃもじゃ」の毛に覆われるほか、太い口吻を持つのが特徴。野外での成虫越冬が観察されている。成虫の出現期や幼虫の食樹等、生態については不明。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓の広葉樹林において、秋期に立ち木の地際

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【存続を脅かす原因】

生息地域の開発等による森林の消失。

ハチ目アナバチ科

フクイアナバチ

Sphex inusitatus fukuianus Tsuneki, 1957

【選定理由】

生息地が限定的で、生息環境も人為的影響を受けやすい。

【概要】

体長30–35mm。体色は全身黒色で、翅も暗褐色。成虫は夏季に出現し、草のまばらな山道や更地、人家の庭などの平坦な裸地に単独で営巣し、ときにまとまったコロニーを形成する。幼虫の餌として、森林性のハネナシコロギス（バツタ目コロギス科）のみを獲物とするため、営巣地の周辺には森林環境が存在することも生息条件と

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵24

なる。国内では本州、四国、九州に分布するが、いずれの地域も生息地は限定的である。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の山間地の裸地で営巣地が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生息に適した裸地の消失。

ハチ目コマユバチ科

ウマノオバチ

Euurobracon yokahamae Dalla Torre, 1898

【選定理由】

本州から九州にかけて広く分布するが、生息地は限定的で、採集例も少ない。

【概要】

体長15–24mm。産卵管がきわめて長く、体長の6.5–9倍に達する。体全体は黄赤褐色で、腹部は暗褐色。翅は赤みがかった黄色で、前翅の3個、後翅に1個の黒紋がある。シロスジカミキリの幼虫に寄生する。本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【県内での生息地域・生息環境】

平地の里山に局所的に生息していると考えられるが、詳細は不明である。隠岐（島後）にも採集記録がある。

【存続を脅かす原因】

里山の環境の荒廃。

ハチ目アリ科

ダルマアリ

Discothyrea sauteri Forel, 1912

【選定理由】

全国的にまれな種である。

【概要】

体長2mm。体の全体が赤褐色でずんぐりした形態のアリ。頭盾が前方に突出し大あごは背面からほとんど見えない。腹部の先端は体の下面に大きく湾曲する。照葉樹林内の腐朽した切り株や土中に巣を作る。節足動物の卵に特殊化した食性をしめし、クモヤムカデの卵を摂食する。コロニーサイズは小さく、平均50個体程度の働きアリと1～数個体の女王アリでコロニーが構成される。本

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵25

州、四国、九州、国外では台湾に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部照葉樹林の林床土中から採集されている。

【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息地域の森林の消失、環境悪化。

ハチ目アリ科

キバジュズフシアリ

Anomalomyrma sp.

【選定理由】

全国的にもきわめてまれな種であり、県内でも1例しか確認されていない。

【概要】

体長3mm弱。体色は赤褐色で、複眼が無い。大あごは側方からみて背方に強く隆起し、内側には短く太い剛毛が密生する特異な形態を示す。これまでの採集記録のほとんどはブナ林で、林内の土壌中から得られている。大あごの特異な形態から特殊化した捕食習性を示すと推測されるが、本種も含め、本属の詳しい生態は不明である。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

本州、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の中国山地の森林から採集されている。

【存続を脅かす原因】

生息地域周辺の開発等による森林の消失。

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハエ目ハナアブ科

ケンランアリノスアブ

Microdon katsurai Maruyama et Hironaga, 2004

【選定理由】

トゲアリを寄主とする特異な生活史を持つハナアブで、トゲアリが営巣する洞のある樹木が点在するような雑木林が減少している。

【概要】

体長12-15mm前後。アリノスアブ類としても大型で、体が金緑色を帯び、他種との識別は容易である。成虫は6月から7月に出現し、トゲアリのコロニーに飛来する。幼虫はトゲアリの巣内で成育する。

日本固有種で本州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

写真 口絵25

【県内での生息地域・生息環境】

県東部および中部の2カ所で確認されている。

【存続を脅かす原因】

トゲアリが営巣可能な雑木林の減少。トゲアリが生息するだけでは本種の生息条件とはならない。

ハエ目クサアブ科

ネグロクサアブ

Coenomyia basalis Matsumura, 1915

【選定理由】

局地的に生息する大型のクサアブ。近年の確認例は少ない。

【概要】

体長14-22mm。雄は黒色、雌は赤褐色で、それぞれ腹部に白色斑紋がある。成虫は春から初夏に出現することが知られているが、生態には不明な点が多い。

国内では北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、国外ではサハリン、千島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

【県内での生息地域・生息環境】

県東部および隠岐諸島で確認されている。

【存続を脅かす原因】

不明。

ハエ目ニクバエ科

ゴヘイニクバエ

Sarcophila japonica (Rohdendorf, 1962)

【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘や砂浜に生息する種であり、その生息地が減少している。

【概要】

体長5-6mm前後。ニクバエ科としては小型である。成虫は魚の死体などに飛来する。

国内では本州、国外では沿海州、朝鮮半島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の砂浜で確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

【存続を脅かす原因】

海浜の開発、特に海浜植生の破壊。海岸浸食。

トビケラ目トビケラ科

カラフトゴマフトビケラ

Semblis phalaenoides (Linnaeus, 1758)

【選定理由】

国内で特異な分布を示すトビケラ的美丽種で、赤名湿原での記録は注目されるが、それ以後の記録はなく、分布・生息環境などは不明である。

【概要】

体長 21-25mm、翅開張 52-65mm。前翅の地色は乳白色で黒褐色の斑紋を点布する。後翅は乳白色で黒色の縁どりがある。ゴマフトビケラによく似ているが、より大型で斑紋が鮮明である。北海道と本州（広島県）に分布し、6-8月に出現する。国外では樺太、シベリアなど

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

に分布する（広島県・絶滅危惧Ⅱ類）。

【県内での生息地域・生息環境】

赤名湿原で採集され、同種と同定されたのが唯一の記録で、その後記録がなく詳細は不明である。広島県三段峡でも採集されている。

【存続を脅かす原因】

湿原の乾燥などによる荒廃は、本種に限らず動植物に致命的である。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

ギンボシツツトビケラ

Setodes turbatus (Navas, 1933)

【選定理由】

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

【概要】

体長4-6mm前後。成虫は前翅が褐色で銀色の細長い筋状の斑紋がある。この模様はヒメセトトビケラのものに似ている。幼虫は、水田の水路のような流れの緩い場所に生息する。全国的な希少種とされてきたが、地域によっては多い場所もあることが報告されている。島根県内ではこれまでの所、多く生息する場所は確認されておらず、灯火採集を行っても容易に確認はできない。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

北海道、本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部で灯火に飛来した記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、圃場整備。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

ビワアシエダトビケラ

Georgium japonicum (Ulmer, 1905)

【選定理由】

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

【概要】

体長8mm前後。幼虫はヨシの生える池沼や河川に生息する。日本固有種で本州に分布する。全国的に減少した種として知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の古い幼虫の記録があるが、現在は水質が悪化し、絶滅したとみられる。県中部の江の川水系では1999年の記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼や河川におけるヨシ群落の消失。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

モリクサツミトビケラ

Oecetis morii Tsuda, 1942

【選定理由】

平地の止水に生息するトビケラで、生息地はきわめて限られている。

【概要】

体長8mm前後。平地性の種とされ、全国的に少ない種として知られている。日本固有種で本州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の溜池1カ所で記録がある。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、圃場整備、外来種の進入。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

ウジセトトビケラ(ウジヒメセトトビケラ)

Setodes ujiensis (Akagi, 1960)

【選定理由】

県内の生息地は局地的で、京都府と島根県のみで記録された全国的にも希少な種である。

【概要】

前翅長6-7mm前後の小型のトビケラ。同定には雄の生殖器の形状を詳しく観察する必要がある。日本固有種で、本州西部に分布する。全国的に生息地は限られている。基準標本産地は京都府である。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の江の川水系に生息している。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

トビケラ目シマトビケラ科

アイミヤマシマトビケラ

Diplectrona aiensis Kobayashi, 1987

【選定理由】

県内の生息地は局地的で、全国的にも希少な種である。

【概要】

体長6.5mm、前翅長8.0mm。奥出雲町（旧仁多町）阿井産の標本を基準標本産地として記載された小型のトビケラである。日本固有種で、本州に分布する。全国的に生息地は限られている。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の斐伊川水系および神戸川水系に生息している。中流域および上流域で記録があり、幼虫の生息場所

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

は不明であるが、成虫の生息地周辺の河川に生息していると考えられる。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

チョウ目ツトガ科

ハマゴウノメイガ

Herpetograma albipennis Inoue, 2000

【選定理由】

寄主植物であるハマゴウを含めた海浜植生の減少に伴う生息地の減少と、生息密度の低下が危惧される。

【概要】

開張15mm程度。翅は黄白色。海浜性のノメイガ類であり、幼虫はハマゴウの蕾や花弁を摂食する。成虫もハマゴウ群落からほとんど離れない。2000年に石川県、伊豆諸島、熊本県、佐賀県産の標本をもとに新種記載された種で、中国地方では島根県と山口県から記録がある。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

出雲・石見地方および隠岐諸島に分布し、大規模なハマゴウ群落がある砂質海岸では個体数が多い。

【存続を脅かす原因】

開発や海岸浸食による海浜植生の破壊。

チョウ目ツバメガ科

ギンツバメ

Acropteris iphiata (Guenee, 1857)

【選定理由】

県内での生息地が限られる。

【概要】

前翅長14–17mm。シヤクガ科の蛾にやや似た姿をしている。白地の翅に明瞭な細い筋が走り、前翅頂付近は普通赤褐色に染まる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では韓国、中国に分布する。成虫の発生は6～7月および9～10月。灯火に飛来することは少なく、昼間葉上などにとまっていることが多い。幼虫の食草としては、ガガイモ、オオカモメヅル、コカモメヅル、トキ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

ワカモメヅル、ナンゴクカモメヅルが知られる。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部と中部の平地から低山地にかけて生息地が点在する。

【存続を脅かす原因】

里山の環境の消失。

チョウ目シヤクガ科

クロモンチビヒメシヤク

Idaea crassipuncta (Inoue, 1971)

【選定理由】

日本固有種であり、本州では神奈川県と島根県で各1例の記録があるのみ。その他には南西諸島で少数の採集例があるだけで著しく少ない。

【概要】

開張10mm前後。日本産*Idaea*属のなかでもっとも小型の種である。翅の色は全体的に白色で、前翅と後翅の中央に黒点がある。本種が属するヒメシヤクガ亜科は外見が近似した種が多く、分布や生態の情報が乏しい分類群の一つである。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布域局限種

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

雲南市木次町山方が唯一の生息確認地である。採集地周辺は湿地や草地、森林といった多様な環境を含む里山である。

【存続を脅かす原因】

生息状況の調査が必要であるが、島根県では里山の近くで採集されているため、多様な環境を含む里山環境の消失。

チョウ目シャクガ科

ムネシロテンカバナミシャク

Eupithecia maenamiella Inoue, 1980

【選定理由】

三重県と島根県出雲市で採集され、基準標本産地となっている。このほかには北海道、青森県、秋田県、岩手県、愛知県で確認されているが、分布は局地的で著しく少ない。

【概要】

開張15-20mm。翅の色は全体的に淡褐色、前翅の先はとがる。後胸背には白紋を有する。国内のシャクガ科カバナミシャク *Eupithecia*属の蛾は60数種にのぼるが、同定が困難な種が多く、本種もそのひとつである。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

出雲市一畑が唯一の生息確認地。島根県では原記載以降に採集例が無い。

【存続を脅かす原因】

本種の生息状況の調査が必要であるが、古木の残る寺社林に依存している可能性もあるとされるため、寺社林を含む環境の消失。

チョウ目シャクガ科

トガリバナミシャク

Horisme stratata (Wileman, 1911)

【選定理由】

県内での生息地が局地的である。

【概要】

前翅長16-18mm程度。翅の地色は褐色、前翅が細長く、縦にとがる。成虫が秋にだけ出現する蛾で、県内では10月から11月にかけて見られるが、少ない。幼虫の食草はセンニンソウ、ボタンヅル。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外ではサハリン、ロシア南東部に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺に生息地があり、山地でのみ採集されていた。しかし、近年隠岐西ノ島でも生息が確認された。数は少なくないという。

【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な里山の環境の消失が考えられる。

チョウ目シャクガ科

フタキスジエダシャク

Gigantalcis flavolinearia (Leech, 1891)

【選定理由】

生息地が限定される。

【概要】

前翅長23-28mm。その名のとおり前後翅に黄色い帯状のすじがあるエダシャクである。成虫は秋だけに出現し、越冬態は卵。幼虫は背面に大きな一對の突起をもち、ズミ、アズキナシ、マメザクラなどバラ科の植物を食べることが知られている。北海道、本州、四国、九州に分布。一属一種、日本特産種である。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県中部三瓶山周辺の山地に生息するが、他地域での生息も予想される。

【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な森林環境の消滅。

チョウ目カレハガ科

ワタナベカレハ

Gastropacha clathrata Bryk, 1949

【選定理由】

本県での採集記録は1例のみ。生息地がきわめて限定される。

【概要】

前翅長27-40mm、オスよりメスが大きい。ホシカレハ *Gastropacha populifolia angustipennis* Walker, 1855とよく似ているが、翅の色が赤褐色であること、前後翅の外縁屈曲が弱いことなどで区別される。国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島、国外では、朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。産地は局地的で少ない種。特にメ

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

スはまれだという。幼虫の食草などは未知。

【県内での生息地域・生息環境】

現在までのところ県中部、中国山地に続く地域での採集記録だけである。

【存続を脅かす原因】

生息に関する調査が必要である。

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅
絶滅危惧Ⅰ類

絶滅
絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅
準絶滅危惧

情報
情報不足

チョウ目ヤママユガ科

オナガミズアオ

Actias gnoma gnoma (Butler, 1877)

【選定理由】

一般的に湿地性のが類とされ、湿地の減少にともない全国的に減少している。県内での生息状況が不明である。

【概要】

開張50mm前後。幼虫はカバノキ科ハンノキ属の植物を寄主とする。本種は同属のオオミズアオとよく似ており、県内における過去の記録はオオミズアオと混同されていた可能性がある。

【県内での生息地域・生息環境】

2000年代には大田市と松江市の平地で記録がある。そ

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

れ以前には県東部と中部で複数の記録があるが、オオミズアオと混同されていた可能性もあり標本の再調査が必要である。松江市ではオオバヤシヤブシから幼虫が見つかっている。

【存続を脅かす原因】

ハンノキ属を含む林の消失。

チョウ目スズメガ科

ギンボシスズメ

Parum colligata (Walker, 1856)

【選定理由】

県内では1990年代以降の採集記録がなく、近隣の岡山県や兵庫県でも減少が危惧されている。

【概要】

開張70-90mm。雌雄ともに前翅中室に銀白紋があり、日本産のスズメガ類で近似した種がないため他種との区別は容易である。幼虫の寄主植物としてクワ科のカジノキ、コウゾが知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部・西部の山間地で記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵25

【存続を脅かす原因】

原因は不明である。寄主植物は現在でも県内各地で見られることから、寄主植物の減少が原因とは考えにくい。生息調査とともに今後の調査が必要である。

チョウ目スズメガ科

スキバホウジャク

Hemaris radians (Walker, 1856)

【選定理由】

全国的に減少が危惧されている。本県では複数の記録があるが、近年の記録がなく生息状況が不明である。

【概要】

開張40-45mm程度。翅は透明で黒く縁取られ、体色は全体的に橙色で腹部に黒帯がある。昼行性で日中に訪花する。幼虫の寄主植物としてスイカズラ科のオミナエシ、オトコエシ、スイカズラ、アカネ科のアカネが知られている。県内では幼虫の確認例がない。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部・中部・西部の山間地で記録がある。隠岐諸島からも記録があるが、別種の誤同定の可能性があり再確認が望まれる。

【存続を脅かす原因】

草原などの草地環境の悪化、減少。

チョウ目シャチホコガ科

ナカスジシャチホコ

Nerice bipartite Butler, 1885

【選定理由】

県内での生息地が限られ、採集例にも散発的な傾向がある。

【概要】

前翅長16-19mm。前翅にある白い条が鮮やかなシャチホコである。成虫の出現は5-6月と7-8月、年2化と考えられる。幼虫はナナカマド、マメザクラを食べる。分布は北海道、本州中部以北および、四国山地といわれてきた。しかし、山陰地方でも採集、生息確認記録が続いている。日本特産種。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県東部、斐伊川沿いの平地から山地まで、三瓶山およびその周辺、西中国山地の一部に生息している。植栽されたナナカマドなどからの発生も考えられる。

【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、ひとつには里山的環境の消滅。

チョウ目シャチホコガ科

エゾクシヒゲシャチホコ

Ptilophora jezoensis (Matsumura, 1920)

【選定理由】

県内での分布がきわめて局地的であり、個体数も少ない。

【概要】

前翅長16mm内外。晩秋から初冬にかけて出現するシャチホコ。体は長い毛に覆われているが、翅は鱗粉が少なく、薄く透きとおっている。また直線状の白い外横線が特徴的である。成虫が現れるのは10～11月。しかし成虫で越冬はせず、卵越冬。春に孵化する。幼虫はカエデ類を食樹にしている。国内では北海道、本州、四国、九州、

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

国外ではロシア南東部、朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

生息地は県中部の三瓶山と西中国山地の一部。山間部に限られる。

【存続を脅かす原因】

雑木林を含む森林環境の減少と消滅。

チョウ目ドクガ科

ウスジロドクガ

Calliteara virginea (Oberthür, 1879)

【選定理由】

全国的に減少が危惧され、個体数も少ない。県内では分布が限られ近年の記録が無い。

【概要】

開張はオスで45mm程度、メスで64mm程度。翅は白色で、前翅に2本の黒線が入る。草原性のドクガ類とされ、寄主植物としてハギ類が知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

大田市三瓶山が唯一の生息確認地。草原やその周辺を生息地としていると考えられるが、調査が必要である。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

【存続を脅かす原因】

草原環境の悪化。

チョウ目ドクガ科

ナチキシタドクガ

Ilema nachiensis (Marumo, 1917)

【選定理由】

生息地が限られ、個体数も少ない。

【概要】

メスの前翅長24mm内外。オスのそれは19mm程度と思われる。オスとメスの大きさや翅の模様が著しく異なり、別種のように見える。オスは前後翅ともに緑がかった黒褐色、メスは後翅が黄色。成虫の発生は7～8月。メスは灯火に飛来するが、オスはほとんど飛んでこない。幼虫はアラカシ、コナラ、オオバヤシャブシ、ミズキ、アカメガシワ、チシャノキを食べることが知られる。国内

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

では本州（西部）、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄本島に、国外では台湾、中国に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地、県中西部三瓶山周辺、江の川、高津川沿いの地域および隠岐（島前）での採集記録がある。いずれも平地から低山地の里山の環境。

【存続を脅かす原因】

低山地の雑木林の減少さらに消滅。

チョウ目ドクガ科

トラサンドクガ

Euproctis torasan (Holland, 1889)

【選定理由】

全国的に減少が危惧され、国内での分布が限られ、県内での生息地も限られている。

【概要】

開張21～25mm。翅は全体的に橙黄色。オスは前翅の中室に斑紋があり、後翅が黒色になる個体もある。メスの前翅は無紋である。本州、四国、九州に分布する草原性のドクガ類であり、中国地方では本県の他に岡山県と山口県から記録がある。成虫は日中に飛翔し、夜間に灯火にも飛来する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

【県内での生息地域・生息環境】

大田市三瓶山の草原で確認されているのみ。

【存続を脅かす原因】

生息地である草原環境の悪化。

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヒトリガ科

シロホソバ

Eliema degenerella (Walker, 1863)

【選定理由】

全国的に減少しているとされる。島根県では十分な調査がされていないが、個体数は多くない。

【概要】

開張22mm程度。翅は白色で無紋。日本産のコケガ類では本種に類似した種がないため同定は容易である。幼虫は地衣類を摂食することが知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐（島後）。県東部ではおもに平地や丘陵地の草地や湿地周辺で確認されている。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【存続を脅かす原因】

調査が必要であるが、開発や乾燥化による地衣類の減少。

チョウ目コブガ科

ニセオオコブガ

Rhynchopalpus protogigas (Inoue, 1970)

【選定理由】

県内での分布がきわめて局地的である。

【概要】

1970年、旧・平田市と徳島市で採集された標本を使って新種として記載された種。前翅長15–20mm程度。コブガでは大きい。翅は地色が灰褐色、前翅には前縁部に接する褐色の斑紋がある。成虫は6～7月に出現、生活史等不詳。ただソメイヨシノの枝についていた繭から羽化した例があるという。本州、四国、対馬に分布するが、採集例は非常に少ない。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の旧・平田市のほか中部の中国山地沿いの地域で採集されている。

【存続を脅かす原因】

調査が必要であるが、寺社林などの消失。

チョウ目ヤガ科

ヒメネグロケンモン

Colocasia umbrosa (Wileman, 1911)

【選定理由】

県内における生息地がきわめて限定され、生息確認記録も非常に少ない。

【概要】

前翅長18mm内外で、ウスベリケンモン亜科のなかでは小型の種類。翅は全体に濃い褐色、前翅には太くて白い帯が現れる。成虫は5月と7～8月に出現、年2化と思われる。幼生期は不明。現在までのところ日本特産種とされている。本州、四国、九州の山地に分布する。北限は東北地方北部という。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の中国山地に近い部分でのみ見つかっている。

【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、落葉樹林帯の減少、消滅が考えられる。

チョウ目ヤガ科

スギタニゴマケンモン

Harrisimemna marmorata Hampson, 1908

【選定理由】

県内での生息地が限られる。

【概要】

前翅長13mm内外。翅の色は茶色が基調、前翅の斑紋が特異で、基部前縁付近と翅頂および後角付近に赤褐色の円形紋を有する。後翅は全体的に褐色。成虫は6月と8～9月に現れ、年2化と考えられる。幼虫の食樹はオオカメノキ。本州、四国、九州に分布する。日本特産種である。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の大万木山およびそれに連なる山塊。ブナ帯に近い場所で見つかっている。

【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

ゴマシオケンモン

Triana isocuspis (Sugi, 1968)

【選定理由】

県内での生息地が限定される。

【概要】

前翅長18-20mm。前翅の細かく白い斑紋がごま塩のように見えることから来た和名のようだ。成虫の発生は5~6月と7~8月、年2化と考えられる。幼虫の食樹はブナ。日本特産種で、東北地方から中部地方の山地、四国の高標高地に分布するとされていたが、県内でも見つか、九州でも見つかったようだ。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県中部および西部の中国山地沿いの地域に狭い生息域がある。おおむねブナ-ミズナラ帯が生息場所といわれるが、県内でもほぼそれに重なる。

【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消失。

チョウ目ヤガ科

ウスズミケンモン

Hylonycta carbonaria (Graeser, 1889)

【選定理由】

全国的に減少が危惧されている。県内では十分な調査がされていないが、生息地は限定され個体数も少ないと考えられる。

【概要】

開張45-50mm。前翅は灰褐色で後翅は白色。本州・四国・九州に分布するが、分布は局地的で個体数も多くない。国外では朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。寄主植物としてクヌギが知られている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の松江市と出雲市で記録がある。近年の記録としては、松江市で丘陵地に近い市街地の街灯に飛来した個体が採集されている。

【存続を脅かす原因】

里山林の環境の変化。

チョウ目ヤガ科

クビジロツメヨトウ

Oncocnemis campicola Lederer, 1853

【選定理由】

県内の採集記録は隠岐 (島前) での1カ所2例のみ。全国的にも分布は局所的。

【概要】

開張31-34mm。前翅は暗い紫灰色、後翅は茶褐色で基部は淡色。和名の由来は、首部の白色毛と前脛節末端にある爪による。全国の既知産地はいずれも石灰岩地や断崖等露岩地であり、県内では隠岐諸島の海岸崖部のほか、本土部の立久恵峡、断魚溪などで生息の可能性が高い。食樹はバラ科シモツケ属とされ、食草を同じくするホシ

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵25

ミスジの記録地を狙った調査が有効と思われる。

【県内での生息地域・生息環境】

西ノ島町の摩天崖で10月に2例記録されている。隠岐のホシミスジはミツパイワガサを食草としており、本種も同様と推測される。

【存続を脅かす原因】

断崖等露岩地の荒廃、生息地への農薬散布等。

チョウ目ヤガ科

アヤモクメキリガ

Xylena fumosa (Butler, 1878)

【選定理由】

県内での生息地が限定され、個体数も少ない。

【概要】

前翅長27mm内外。大型種である。全体的に濃い茶色を基調とした翅の色、斑紋は目立たないながら木目模様を呈す。成虫は11月ごろに現れ、越冬後3~4月まで活動するというが、県内では1月と2月に採集記録があるにすぎない。幼虫は多食性で、色々な植物につき、サクラ類、ダイズ、アズキ、ジャガイモ、タバコ、ユリ類、ネギ、ノゲシなどの記録がある。北海道、本州、四国、九

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

州に分布するものの、局地的で、個体数も多くない。国外では朝鮮半島とロシア南東部に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

今のところ三瓶山と隠岐西ノ島で見つかっているのみ。三瓶での採集個体は草原近くの灯火に来たもの。

【存続を脅かす原因】

草原や里山的環境の消失。

チョウ目ヤガ科

ムラサキハガタヨトウ

Blepharita amica (Treitschke, 1825)

【選定理由】

生息地がきわめて限定され、個体数も非常に少ない。

【概要】

前翅長20mm内外。紫褐色の翅をもつ。前翅の斑紋はオオハガタヨトウ *Mniotype melanodonta* (Hampson, 1906) に似る。後翅は淡褐色。成虫は10~11月に出現する。食草は国内ではヨモギの記録がある。ヨーロッパではトリカブト、ウワミズザクラほかキク科、セリ科などの植物を食べるといふ。国内では北海道、本州に、国外ではサハリン、朝鮮半島、中国、ロシア南東部からヨー

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ロッパに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

関西以西には生息していないといわれていた種。1990年代後半に三瓶山で見つかった。現在まで生息地は三瓶のみ。

【存続を脅かす原因】

森林および高原草地の消失。

チョウ目ヤガ科

キスジウスキヨトウ

Archanara sparganii (Esper, 1790)

【選定理由】

湿地の減少にともない全国的に減少している。本県では調査が不十分であり、生息状況が不明である。

【概要】

開張29-44mm。翅の色は全体的に薄い茶色で個体によっては赤褐色を帯び、全体的に黒色鱗片が混ざる。湿地性のがで、幼虫はヨシやミクリの茎内に食入する。

【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の中海沿岸で記録がある。灯火に飛来した個体が採集されているため発生地は不明であるが、近隣に

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

は小規模な湿地が点在する。

【存続を脅かす原因】

湿地環境の消失。

チョウ目ヤガ科

トビイロアカガネヨトウ

Euplexia albilineola (Wileman & South, 1918)

【選定理由】

県内での生息地が局限され、今後もっとも失われやすいと思われる湿地環境に生息すると考えられるため。

【概要】

前翅長15mm内外。前翅は銅色の地色に白く縁どられた腎状紋と環状紋、さらに白い内外横線とで印象的な模様を形作っている。成虫は9~11月にかけて湿地で見つかることが多い。年1化と思われる。幼虫期、食草等については未知。本州(福島県以南)、四国、九州に分布する。成虫の発生時期が遅いことと、生息環境が湿地に限定さ

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵25

れると思われるため、記録の少ない種であるという。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺で1例記録があるのみ。採集地は川のほとりで、水性植物も繁茂している。

【存続を脅かす原因】

湿地環境の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

ムラサキシタバ

Catocala fraxini (Linnaeus, 1758)

【選定理由】

県内での生息地が限られる。

【概要】

前翅長45-49mm。Catocala属のなかで唯一後翅に青紫色の帯を有する。大型種で、国内では最大級のシタバガである。成虫の出現は8~10月。年1化。幼虫はヤマナラシおよび栽培種のポプラを食樹とする。国内では北海道、本州、四国、対馬に分布。四国、中国地方ではまれ。国外では東アジアからヨーロッパまで広く分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の鯛ノ巣山、中部の琴引山の2カ所でのみ採集例があった。いずれも標高の高い場所だが、最近、3例目として島根半島でも採集された。

【存続を脅かす原因】

食樹であるヤマナラシなどが育つ林の減少。

チョウ目ヤガ科

ナマリキシタバ

Catocala columbina yoshikoi Ishizuka, 2002

【選定理由】

生息地が限定され、個体数も多くない。

【概要】

開張43–53mm。後翅が黄色のシタバガ類であり、前翅は鉛色を帯びている。本州、四国、九州に分布するが生息地は局地的である。石灰岩地帯や渓谷、海岸などの露岩地に自生するシモツケ属を寄主植物とする。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の神戸川流域および西部の江の川流域の渓谷、隠岐（島後）の海岸で採集されている。いずれの場所も

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

渓谷や海岸の露岩地で、シモツケ属の植物が自生している。県内ではイブキシモツケから幼虫が見つかった。

【存続を脅かす原因】

シモツケ属が自生する露岩地の消失や荒廃。成虫は樹液や花蜜を摂食すると考えられるため、周辺の森林の保全も重要である。

チョウ目ヤガ科

ヨシノキシタバ

Catocala connexa Butler, 1881

【選定理由】

県内での生息地がきわめて限定される。

【概要】

前翅長26–28mm。前翅はキシタバ類によく見られる樹皮模様であるが、オスとメスは色彩が異なる。オスは暗灰褐色、メスは白色を帯びる。また前翅がほとんど黒化する個体もある。成虫は夏から10月にかけて見られる。幼虫の食樹はブナ。北海道、本州、四国、九州に分布し、おおむねブナの分布域と重なる。ただ、いずれの生息地でも多産することはなく、少数が見つかるだけだという。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

国外では中国に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山での採集例があるのみ。ブナ帯で発生する蛾である。

【存続を脅かす原因】

ブナを含む森林の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

ヒメアシブトクチバ

Dysgonia dulcis (Butler, 1878)

【選定理由】

県内での生息地が局限される。

【概要】

前翅長15mm内外。アシブトクチバ類では最も小型の種類である。翅の地色は茶色、前翅の根元から中央にかけて広い紫灰色部がある。成虫は6–7月と8–9月に出現する。年2化と考えられるが、幼虫期も含めて生活史の詳細は不明。国外では中国、朝鮮半島に、国内では宮城県付近より南の本州、四国、九州、対馬に分布する。局地的で少ない。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山および西部の海岸部に生息する。県西部からは記録が途絶えて久しい。

【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、林の伐採などの環境改変。

チョウ目シジミチョウ科

オオミドリシジミ

Favonius orientalis (Murray, 1875)

【選定理由】

情報が少ないが、まれで衰亡しつつあると思われる。

【概要】

翅長19–23mm。ナラガシワやコナラがある低山地で6月頃に発生する。オスの翅表が青緑色をするファボニウスの一群で、午前9時頃から縄張りを張って飛び交う。早朝に山頂で占有行動をとる。メスは不活発で葉陰で休んでいることが多い。ミドリシジミの仲間は似たものが多いが、本種は前翅後翅の裏面に明瞭な短状があるので識別できる。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

食樹がある周辺の山林や畑が、放置により遷移が進行して環境が悪化している。記録がある安来市や旧・木次町でもほとんど見られなくなった。県内での生息実態について調査が待たれる。

【存続を脅かす原因】

開発や雑木林林縁部の荒廃が原因と思われる。

昆虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅
危惧Ⅰ類

絶滅
危惧Ⅱ類

準絶滅
危惧

情報
不足

昆
虫
類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

准絶滅危惧

情報不足